

HPE OpenVMS for Integrity Servers

アップデート・キット VMS84I_UPDATE V1300 リリース・ノート

2018年1月

本書では、OpenVMS Integrity V8.4 に対するアップデートキットである VMS84I_UPDATE-V1300 の概要、インストール方法、および本キットにより修正される問題点について説明しています。

日本ヒューレット・パカード株式会社

© 2018 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の著作権は Hewlett Packard Enterprise Development LP が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett Packard Enterprise Development LP の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パッカーは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

日本ヒューレット・パッカーは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

Confidential computer software. Valid license from HPE and/or its subsidiaries required for possession, use, or copying.

Consistent with FAR 12.211 and 12.212, Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items are licensed to the U.S. Government under vendor's standard commercial license.

Neither HPE nor any of its subsidiaries shall be liable for technical or editorial errors or omissions contained herein. The information in this document is provided "as is" without warranty of any kind and is subject to change without notice. The warranties for HPE products are set forth in the express limited warranty statements accompanying such products. Nothing herein should be construed as constituting an additional warranty.

DISCLAIMER OF WARRANTY AND LIMITATION OF LIABILITY

THIS PATCH IS PROVIDED AS IS, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND. ALL EXPRESS OR IMPLIED CONDITIONS, REPRESENTATIONS AND WARRANTIES, INCLUDING ANY IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT, ARE HEREBY EXCLUDED TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. IN NO EVENT WILL HPE BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE OR PROFIT, OR FOR SPECIAL, INDIRECT, CONSEQUENTIAL, INCIDENTAL OR PUNITIVE DAMAGES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, WITH RESPECT TO ANY PATCH MADE AVAILABLE HERE OR TO THE USE OF SUCH PATCH.

原典：本書は『HPE OpenVMS Update Kit for Integrity Servers VMS84I_UPDATE-V1300 ECO Cover Letter』と各パッチキットのリリース・ノートの情報を元に作成しています。

目次

まえがき	vii
1 キットの概要	
1.1 本アップデートキットの概要	1-1
1.2 キット名	1-1
1.3 キットの説明	1-1
1.3.1 インストレーションの必要性	1-1
1.3.2 リブートの必要性	1-2
1.3.3 このキットを適用する OpenVMS のバージョン	1-2
1.3.4 新機能および新しいハードウェアのサポート	1-2
1.4 本キットにより旧版となるキット	1-2
1.5 依存するキット	1-2
1.6 本アップデートキットに含まれるパッチキット	1-3
2 インストレーションに関する注意事項	
2.1 テストイメージおよびデバッグイメージのバックアップ	2-1
2.2 圧縮ファイルの展開	2-1
2.3 インストレーションのためのコマンド	2-1
2.4 インストレーション時のプロンプト表示の制御	2-2
2.5 VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットのインストールについて	2-3
3 VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題	
3.1 新機能	3-1
3.1.1 シンプロビジョニングのユニットの再利用 (Reclaim)	3-1
3.2 解決される問題	3-7
3.2.1 CRTL stat() API は、特定の条件で、誤った st_ino (ファイル ID) 値を返すことがある	3-7
3.2.2 GNV CP コマンドは、特定の条件で "I/O error or accvio" を発生させる	3-7
3.2.3 CRTL lstat() API は、特定の条件で、"I/O channel" をリークすることがある	3-8
3.2.4 "iconv.h" ヘッダーを使用する C および C++ プログラムは、特定の条件でコンパイラの警告またはエラーを受け取ることがある	3-8
3.2.5 差分バックアップのリストアが "%RMS-F-SYN" エラーで失敗する	3-9

3.2.6	dbasic\$io_nosignal をコールした後、 I/O オペレーションを行い成功した場合、 後続の I/O オペレーションに "no signalling" 状態が発生する	3-9
3.2.7	GET および UPDATE がエラーの場合、 MOVE TO で MEMMANVIO エラーが発生する	3-10
3.2.8	"SET SECURITY" と "SHOW" コマンドの問題	3-10
3.2.9	VMS84I-SYS-V0700 のインストール後、 DIR /SIZE コマンドはサイズ表示中に余分なスペースを出力する	3-11
3.2.10	OpenVMS V8.4 で DIRECTORY/DATE=MODIFIED コマンドが正しい日付を表示しないことがある	3-12
3.2.11	共有イメージをメインイメージとして実行すると、 %DCL-W-ACTIMAGE, error activating image 'string' で失敗することがある	3-12
3.2.12	特定のシナリオでファイルからレコードを読み取っているときに、 COBOL READ 操作で ACCVIO が発生することがある	3-13
3.2.13	COBOL アプリケーションが、 RMS ファイルを順に逆方向に読み取る時にクラッシュすることがある	3-13
3.2.14	クラスタのネットワークインターフェイスがダウンした場合にノードが CLUEXIT でクラッシュすることがある	3-14
3.2.15	VMS84I_SYS-V0700 を使うと、 消去とマークされたボリュームまたはファイルに対する非特権ユーザの削除操作は、 -RMS-E-PRV- エラーによって、 失敗することがある	3-15
3.2.16	SAN からブート中に、 I/O データベースの不整合の bugcheck でシステムがクラッシュする	3-16
3.2.17	ストレージ・デバイスの断続的なバス障害	3-17
3.2.18	SDA の FC SHOW NS コマンドにより、 システムクラッシュが発生することがある	3-17
3.2.19	OpenVMS 性能監視ツールは、 SAN デバイスのプライマリ・バスが MSCP の場合、 SAN デバイスの性能データを収集することができない	3-18
3.2.20	MSA\$UTIL では、 2TB を超える SAS ディスクの設定ができない	3-18
3.2.21	SYSMAN IO LIST コマンドは、 使用可能な SAS テープドライブを未構成と表示する	3-19
3.2.22	SAS テープドライブの WWID が、 SHOW DEVICE および F\$GETDVI の出力に表示されない	3-19
3.2.23	3PAR デバイスをリモートコピーグループに追加する、 または削除すると、 OpenVMS からデバイスにアクセスできなくなることがある	3-20
3.2.24	ノンページプールの破壊により、 さまざまなシステムクラッシュが発生する	3-20
3.2.25	SYS700 キットでは、 RECLAIM が可能でないメンバーを持つシャドウ・セット上の RMS 関連のファイル作成は、 ILLIOFUNC エラーで失敗する	3-21
3.2.26	手動パス切り替え操作が SYSTEM-E-INVMVIP エラーで失敗する	3-21
3.2.27	マウントが "%MOUNT-F-FILESTRUCT" エラーで失敗する事がある	3-22
3.2.28	ANALYZE/RMS_FILE/CHECK は、 BACKUP/IGNORE=INTERLOCK コマンドで作成されたバックアップ・ファイルの領域ディスクリプタの矛盾を検出できない	3-22
3.2.29	SYSS\$FILESCAN により、 プロセスの終了やシステム・クラッシュが発生する可能性がある	3-23
3.2.30	Extended File Specifications でのディレクトリ名のリスト表示が失敗することがある	3-23
3.2.31	RMS エグゼクティブモードのアラインメント・フォルト	3-24
3.2.32	RMS-F-BUG, fatal RMS condition (FFFFFFC0), BADGBH の修正	3-25

3.2.33	特定のシナリオで、プロセスの RMS ディレクトリキャッシュが更新されない.....	3-25
3.2.34	RMS でディレクトリツリーを走査中に "...DIR" という名前のサブディレクトリは無視するように変更された.....	3-26
3.2.35	INIT/ERASE コマンドは、サイズが 1TB より大きいディスクでデータセキュリティ消去 (DSE) 操作に失敗することがある.....	3-26
3.2.36	マルチスレッドのプロセスの停止時のランダムなクラッシュ.....	3-27
3.2.37	プロセスごとの P1 プール・ヒストリー・リング・バッファの有効化...	3-28
3.2.38	SHOW DEVICE コマンドのアドレス表示問題.....	3-28
3.2.39	SYSGEN の ACP_*CACHE パラメータの最大値の指定.....	3-29
3.2.40	多くのストレージ装置を持つサーバーでのシステム空間の損失.....	3-29
3.2.41	強制的なパススイッチ時に、SYSTEM-E-INVMVIP エラーメッセージが表示される.....	3-30
3.2.42	MPSYNCH 時間を減らすための改良.....	3-31
3.2.43	グローバル・セクション・テーブルトレースの拡張.....	3-31
3.2.44	バインドされたボリューム・セットへの Fast I/O での Bugcheck.....	3-32
3.2.45	一時的なノンページプール枯渇のより速い処理.....	3-33
3.2.46	MMG\$FIND_GSTE_C でのアクセス違反によるシステム・クラッシュ.....	3-34
3.2.47	イメージ起動時に PROCSECTCNT 制限で、プロセスが SECTBLFUL エラーで終了する.....	3-35
3.2.48	ローカル MG デバイスにアイテムコード DVI\$_CLIENT_DEVICE で\$GETDVI を呼んだ時、システムは SSRVEXCEPT でクラッシュする.....	3-36
3.2.49	WCBFCBMNG bugcheck でのシステム・クラッシュ.....	3-36
3.2.50	DIRECTORY/GRAND_TOTAL/SIZE コマンドが不正な合計を表示する.....	3-37
3.2.51	ロック値ブロックシーケンス番号のオーバーフロー動作の修正.....	3-37
3.2.52	メモリリークにより UCM サーバが UCM イベントログファイルの作成に失敗する.....	3-38
3.2.53	USB VKVM デバイスの構成時に SYS\$OHCDRIVER で INVEXCEPTN が起こる.....	3-38

4 OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキットについての情報

A 本アップデートキットで修正されるファイル一覧

表

1-1	本アップデートキットに含まれるキット一覧.....	1-3
-----	---------------------------	-----

本書の目的

本書では、VMS84I_UPDATE-V1300 のインストール方法と、本キットにより修正される問題点について説明しています。

対象読者

本書は、システム管理者を対象としています。

本書の構成

本書の構成は次のとおりです。

第 1 章	本アップデートキットについて概要を説明しています。
第 2 章	本アップデートキットのインストールに関する注意事項について説明しています。
第 3 章	本アップデートキットにより修正される問題点について説明しています。
第 4 章	本アップデートキットに含まれているパッチキットのリリースノートについて説明しています。
付録 A	本アップデートキットのインストールにより修正されるファイルの一覧を示しています。

関連資料

- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V0600 リリース・ノート』
- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V0700 リリース・ノート』
- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V0800 リリース・ノート』
- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V0900 リリース・ノート』
- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V1000 リリース・ノート』

- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V1100 リリース・ノート』
- 『HP OpenVMS Integrity アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V1200 リリース・ノート』

これらのドキュメントは下記の URL で参照できます。

<http://h50146.www5.hpe.com/products/software/oe/openvms/manual/>

本書で使用する表記法

本書では、下記の表記法を使用します。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
PF1 x	PF1 x という表記は、PF1 に定義されたキーを押してから、別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
Return	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 文中のオプションの引数が省略されている。 • 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 • パラメータや値などの情報をさらに入力できる。
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
()	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。

表記法	意味
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>/PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
-	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数がある後の行に続くことを示します。
数字	特に明記しない限り、本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数、8 進数、16 進数) は、その旨を明記してあります。

キットの概要

1.1 本アップデートキットの概要

本アップデートキットの概要は以下のとおりです。

対象バージョン:	OpenVMS for Integrity Servers V8.4
キットサイズ:	331187 ブロック
インストレーション・レーティング:	INSTALL_1
リブートの必要性:	必要
インストレーションに関する注意事項:	無し
本キットにより旧版となるキット:	VMS84I_UPDATE-V1200
依存する必須キット:	VMS84I_PCSI-V0400 (あるいはそれ以降の PCSI 修正キット)
オプションの依存キット:	無し

チェックサム:

```
VMS84I_UPDATE-V1300.ZIPEXE Checksum: 2543189946
HP-I64VMS-VMS84I_UPDATE-V1300--4.PCSI$COMPRESSED Checksum: 4174545432
VMS84I_UPDATE-V1300.ZIPEXE MD5 Checksum:
1A91163B3D8C6E0941CBADC54A31E716
HP-I64VMS-VMS84I_UPDATE-V1300--4.PCSI$COMPRESSED MD5 Checksum:
91B6FE8E1F26DF4E2D5BE9CC44055F85
```

1.2 キット名

本キットのキット名は以下のとおりです。

- VMS84I_UPDATE-V1300

1.3 キットの説明

1.3.1 インストレーションの必要性

インストレーション・レーティング	説明
INSTALL_1	対象ユーザーは全ユーザーです。すべてのシステムでインストールが必要です。

キットの概要

1.3 キットの説明

現在の CLD 情報に基づいて示されたこのインストール・レーティングは、この修正キットの適用が必要なシステムについて示しています (本書のコピーライト情報のページの Disclaimer of Warranty and Limitation of Liability Statement を参照)。

1.3.2 リブートの必要性

本パッチのインストール時にはリブートが必要になります。

システムが不安定になるのを防ぐために、キットのインストール直後にリブートすることを強くお勧めします。OpenVMS クラスタ環境内に他のノードが存在する場合は、新しいイメージを使用するようにそれらのシステムもリブートする必要があります。クラスタ全体のリブートが不可能あるいは不都合がある場合は、ローリング・リブートの実行を検討してください。

1.3.3 このキットを適用する OpenVMS のバージョン

本キットは OpenVMS の下記のバージョンに対して適用してください。

- HPE OpenVMS for Integrity Servers V8.4

1.3.4 新機能および新しいハードウェアのサポート

このアップデートキットでサポートする新しいハードウェアはありません。

このアップデートキットでは以下の新機能をサポートします。

- シンプロビジョニングのユニットの再利用 (Reclaim) (第 3.1.1 項)

1.4 本キットにより旧版となるキット

本キットは、下記のアップデートキットの後継キットです。

- VMS84I_UPDATE-V1200

1.5 依存するキット

本キットあるいは必要なキットをインストールする前に、以下の修正キット (あるいはその後継の修正キット) をインストールしておく必要があります。

- VMS84I_PCSI-V0400

1.6 本アップデートキットに含まれるパッチキット

VMS84I_UPDATE-V1300 キットは、これまでに OpenVMS for Integrity Servers V8.4 に対してリリースされたアップデートキットを含む累積キットになっています。VMS84I_UPDATE-V1300 キットに含まれているキットの一覧は表 1-1 のとおりです。

なお表 1-1 では、以前のバージョンの VMS84I_UPDATE キットでも同じパッチキットが提供されている場合は、そのアップデートキット名を示してあります。

表 1-1 本アップデートキットに含まれるキット一覧

キット名	以前の UPDATE キットでも提供されている場合、そのキット名
VMS84I_ACMELDAP-V0200	(VMS84I_UPDATE-V1000)
VMS84I_ACRTL-V0400	
VMS84I_BACKUP-V0300	
VMS84I_BASRTL-V0100	
VMS84I_CLIUTL-V0300	
VMS84I_COBRTL-V0100	
VMS84I_DCL-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_DDTM-V0100	(VMS84I_UPDATE-V1000)
VMS84I_DEBUG-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0600)
VMS84I_DRIVER-V0400	
VMS84I_ENCRYPT-V0200	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_F11X-V0400	
VMS84I_FIBRE_SCSI-V1100	
VMS84I_FORRTL-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0700)
VMS84I_IPC-V0200	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_IVMSLOA-V0200	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_JOBCTL-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_LAN-V0500	(VMS84I_UPDATE-V1200)
VMS84I_LDAP-V0200	(VMS84I_UPDATE-V1100)
VMS84I_LIBOTS-V0100	(VMS84I_UPDATE-V1100)
VMS84I_LMF-V0100	(VMS84I_UPDATE-V1100)
VMS84I_LOADSS-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0800)
VMS84I_LOGINPLUS-V0200	(VMS84I_UPDATE-V0700)
VMS84I_MANAGE-V0200	(VMS84I_UPDATE-V1200)
VMS84I_MIME-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0800)
VMS84I_MOUNT96-V0300	
VMS84I_MSCP-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0800)

(次ページに続く)

キットの概要

1.6 本アップデートキットに含まれるパッチキット

表 1-1 (続き) 本アップデートキットに含まれるキット一覧

キット名	以前の UPDATE キットでも提供されている場合、そのキット名
VMS84I_MUP-V0500	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_RAMDISK-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_RMS-V0600	
VMS84I_SECSRV-V0100	(VMS84I_UPDATE-V1000)
VMS84I_SHADOWING-V0300	(VMS84I_UPDATE-V1100)
VMS84I_SORT32-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0800)
VMS84I_SYS-V0700	
VMS84I_SYSLOA-V0300	
VMS84I_TDF-V0100	(VMS84I_UPDATE-V1100)
VMS84I_UAF-V0100	(VMS84I_UPDATE-V0900)
VMS84I_USB-V0200	
VMS84I_XFC-V0200	(VMS84I_UPDATE-V1000)

インストールに関する注意事項

2.1 テストイメージおよびデバッグイメージのバックアップ

OpenVMS エンジニアリングに報告された問題をデバッグする過程で、お客様のシステムにデバッグイメージやテストイメージのインストールをお願いしている場合があります。通常これらのイメージには、OpenVMS の修正パッチプロセスによってリリースされるイメージと同様の生成フラグは付与されません。このため、SYS\$COMMON 領域に存在するデバッグイメージおよびテストイメージは、本キットでインストールされる同じ名前のイメージで置き換えられます。この場合、置き換えられたイメージで提供していた機能は失われることになります。これらのデバッグイメージあるいはテストイメージを残したい場合は、次のような操作を行ってください。

- 本キットをインストールする前に、保管するテストイメージ/デバッグイメージを SYS\$SPECIFIC 領域に移動してください。
- キットのインストール中、SYS\$SPECIFIC にあるイメージを削除するかどうか質問されます。ここで、残したいイメージに対しては NO と応答してください。
- インストールが完了した後、システムをリブートする前 (必要な場合) に、SYS\$SPECIFIC から SYS\$COMMON へそのイメージを戻してください。

2.2 圧縮ファイルの展開

本キットは自己解凍の ZIPEXE キットとして提供されています。このファイルをインストール可能な PCSI ファイルに展開する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
$ RUN VMS84I_UPDATE-V1300.ZIPEXE
```

2.3 インストールのためのコマンド

本キットのインストールは、SYSTEM アカウントでログインして DCL プロンプトで次のように入力し、POLYCENTER Software Installation ユーティリティを使用し行ってください。

```
$ PRODUCT INSTALL VMS84I_UPDATE [ /SOURCE=キットの場所]
```

インストールに関する注意事項

2.3 インストールのためのコマンド

なお、本キットは/SAVE_RECOVERY_DATA オプションが有効な状態でインストールされます。この修飾子を使用すると、何らかの問題が発生した場合にシステムからこのキットを簡単に削除することができます。このオプションを無効にしたい場合は、PRODUCT INSTALL コマンドで/NOSAVE_RECOVERY_DATA 修飾子を使用します。/SAVE_RECOVERY_DATA 修飾子の使用は任意ですが、使用することを強くお勧めします。

/SOURCE 修飾子には、このキットが含まれている CD あるいはディスク・ディレクトリを指定します。現在のディレクトリにキットが存在する場合にはこの修飾子の指定は省略できます。

PCSI キットのインストールに関するその他のヘルプ情報は、DCL プロンプトでHELP PRODUCT INSTALL と入力することにより参照できます。

2.4 インストール時のプロンプト表示の制御

本キットのインストール中、ユーザーによる応答が必要ないいくつかの質問が表示されます。質問に対して応答せずにインストールを自動化したい場合は、次のような論理名定義とコマンドを含んだ DCL コマンドプロシージャを作成する必要があります。

- バックアップに関する質問プロンプトを表示しないようにするには、次のように定義します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$BACKUP TRUE
```

- リポートに関する質問プロンプトを表示しないようにするには、次のように定義します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$REBOOT TRUE
```

- *.*_OLD の名前で置き換えられたファイルを保管しておく場合は、次の論理名を YES と定義してください。置き換えられたファイルの保管が必要ない場合は、次の論理名を NO と定義してください。なお、PRODUCT INSTALL コマンドで/SAVE_RECOVERY_DATA 修飾子を指定した場合 (指定することを推奨します)、置き換えられたすべてのファイルは保管されます。この場合、*.*_OLD の保管を指定する必要はありません。

```
$ DEFINE/JOB ARCHIVE_OLD NO
```

- PRODUCT INSTALL コマンドに次の修飾子を追加して、DCL コマンドプロシージャを作成してください。

```
/PROD=HP/BASE=I64VMS/VER=V13.0 [ /SOURCE=キットの場所 ]
```


- 割り当てられた論理名を解除します。

```
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$BACKUP  
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$REBOOT  
$ DEASSIGN/JOB ARCHIVE_OLD
```

VMS84I_UPDATE-V1300 キットをインストールするためのコマンドファイルの例を以下に示します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$BACKUP TRUE  
$ DEFINE/SYS NO_ASK$REBOOT TRUE  
$ DEFINE/JOB ARCHIVE_OLD NO  
$!  
$ PROD INSTALL VMS84I_UPDATE/PRODUCER=HP/BASE=I64VMS/VER=V13.0  
$!  
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$BACKUP  
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$REBOOT  
$!  
$ exit  
$!
```

2.5 VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットのインストールについて

VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットには VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットが統合されています。VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットには、SYSSACM 対応 (ACMELOGIN) のログインイメージと従来から提供されている SYSSACM 非対応の標準のログインイメージが含まれています。

VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットは、システムにインストールされている LOGINOUT.EXE および SETP0.EXE が SYSSACM 対応であるか SYSSACM 非対応であるかをインストール時に検出し、この結果をもとに SYSSACM 対応あるいは SYSSACM 非対応のいずれかのログインイメージを自動的に置き換えます。このため、どちらのバージョンのログインイメージをインストールするかをユーザーが選択する必要はありません。

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題

この章では、VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットに含まれている各パッチキットで提供される機能、および修正される問題について説明しています。

なお、この章では、VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットで新たに提供されるパッチキットによる修正点のみを説明します。VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットは累積キットになっているため過去にリリースされたすべてのパッチキットが含まれていますが、以前のバージョンのアップデートキットで提供されたパッチキットによる修正については、それぞれのバージョンのアップデートキットのリリースノートを参照してください。

過去のアップデートキットのリリースノートについては、第4章を参照してください。

3.1 新機能

VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットにより提供される新機能を以下に示します。なお以降の各項の冒頭に、当該機能を提供するアップデートキット内のパッチキット名を示しています。

3.1.1 シンプロビジョニングのユニットの再利用 (Reclaim)

キット名：VMS84I_SYS-V0700

新機能の説明：

シンプロビジョニングは、オンデマンド・ストレージと仮想割り当て機能により、ストレージの使用率を最大化する仮想化技術です。シンプロビジョニングでは、容量は割り当てられますが、使用時に構成されます。

ほとんどのストレージアレイがシンプロビジョニングとともにサポートする重要な機能の1つが再利用 (Reclaim) です。ストレージアレイ・コントローラは、OSによって使用されていない領域を検出し、解放して、ストレージプールに戻すことができます。使用されていない領域は、以前にOSによって割り当てられ使用されていたボリューム領域で、そこでのさまざまなファイル操作により生じます。再利用 (Reclaim) が機能するためには、OSがストレージアレイ・コントローラに使用されていない領域の

3.1 新機能

ブロックを示す必要があります。すると、この領域は順次解放されストレージプールに戻されます。

今回の拡張以前は、OpenVMS はストレージアレイにこの情報を示す機能がありませんでした。この機能により、シンプロビジョニングの再利用 (Reclaim) をサポートするデバイスを OpenVMS 上で再利用可能という構成ができるようになりました。実装では、標準の SCSI UNMAP コマンドを使用して、使用されていないデータブロックを再利用します。再利用可能のボリューム上でのファイルレコードまたはデータブロックの削除時に、ストレージデバイスに SCSI UNMAP リクエストを送信し、削除された領域を再利用します。OpenVMS は削除を正常に完了しますが、ブロックの再利用とかかる時間はストレージアレイに依存します。

OpenVMS ストレージ・デバイスでの再利用 (Reclaim) 機能の有効化：
OpenVMS ストレージ・デバイスではデフォルトで、RECLAIM サポートは無効になっています。RECLAIM 機能を有効にする 2 つの方法があります。

```
INITIALIZE/[NO]RECLAIM <デバイス名/シャドウセットボリューム>  
[Default is NORECLAIM]
```

```
SET VOLUME/[NO]RECLAIM <デバイス名/シャドウセットボリューム>  
[Default is NORECLAIM]
```

再利用の制御のために INITIALIZE および SET VOLUME コマンドに、新しい修飾子 /NO]RECLAIM が追加されました。/RECLAIM 修飾子は、シンプロビジョニングおよび SCSI UNMAP コマンドをサポートする Files-11 On-Disk 構造レベル 2 (ODS-2) およびレベル 5 (ODS-5) ディスクに適用できます。

RECLAIM サポートは、デバイスの初期化時に、またはデバイスのマウント後でも SET VOLUME DCL コマンドを使用して有効にできます。RECLAIM 修飾子は、システム・ディスクでもサポートされます。RECLAIM の設定は、システムのリブート後も維持されます。

デバイスの初期化時に RECLAIM を有効にすると、ストレージアレイにすべての初期化領域の再利用を指定し、デバイスの RECLAIM 機能を有効にします。

RECLAIM 非対応のデバイスで RECLAIM を有効にしようとすると、INIT または SET VOLUME コマンドで "NORECLAIM、Volume is not reclaim capable" 警告メッセージが出ます。

デバイスの初期化時の RECLAIM 処理が失敗した場合、"INIT-W-RECLAIMFAIL, volume not completely reclaimed" という警告メッセージが出ます。

注意：INIT または SET VOLUME コマンドに /RECLAIM と /ERASE を指定した場合、/ERASE が優先されます。

シャドウセットでの再利用 (Reclaim) 機能の有効化：

デバイスの初期化時に /SHADOW と /RECLAIM を指定すると、続くシャドウセットのマウント時に、仮想ユニットがマスターメンバーから RECLAIM 設定を継承します。シャドウ・マウントでは、マスターメンバーが /RECLAIM で初期化され、すべてのメンバーボリュームが シンプロビジョニング および SCSI UNMAP コマンドをサポートしている場合にのみ、シャドウセットで RECLAIM 機能が有効になります。

いずれかのシャドウメンバが条件を満たさない場合、仮想ユニットは RECLAIM 無効でマウントされます。

SET VOLUME /RECLAIM が シャドウ・セットに対して実行されると、すべてのメンバーボリュームが シンプロビジョニング および SCSI UNMAP コマンドをサポートしている場合にのみ、RECLAIM が有効になります。

仮想ボリュームで RECLAIM 機能を有効にする例：

1. この例では、ボリューム \$1SDGA6: を RECLAIM 有効にしています。

```
$INITIALIZE/RECLAIM $1SDGA6: RECLAIM_VOL
```

2. この例では、\$1SDGA4: および \$1SDGA5: がメンバのシャドウセットに対して RECLAIM を有効にしています。

```
$INITIALIZE/RECLAIM/SHADOW=( $1SDGA4:, $1SDGA5:) SHAD_VOL
```

3. この例では、ボリューム \$1SDGA10: を RECLAIM 有効にしています。

```
$SET VOLUME/RECLAIM $1SDGA10:
```

仮想ボリュームの RECLAIM 機能の表示：

1. SDA コマンド "SHOW DEVICE" が拡張され、ボリュームの RECLAIM 機能が表示されます。

例：

```
SDA> SHOW DEVICE $1SDGA7:
$1SDGA7 [KAUAI1SDGA7]                3PARdata VV          UCB: 887F1BC0
Device status: 18021810 online,valid,unload,lcl_valid,exfunc_supp,fast_path
Characteristics: 1C4D5008 dir,mpdev_member,fod,shr,avl,mnt,elg,idv,odv,rnd
69010281 clu,srv,nnm,nlt,scsi,thp,dtm,thp_unmap
```

3.1 新機能

デバイス属性の中のビット "thp" は、ボリュームがシンプロビジョニングであることを示します。デバイス属性の中のビット "thp_unmap" は、ボリュームが SCSI UNMAP コマンドをサポートしていることを示します。これらのビットが両方とも設定されている場合、デバイスは RECLAIM 可能です。

2. レキシカル関数 F\$GETDVI() を使用し、アイテムコード DEVCHAR2 でデバイスの RECLAIM 機能の情報を取得できます。

例 :

```
$ DEVCHAR2=F$GETDVI("$1$DGA7:", "DEVCHAR2")
$ SHOW SYMBOL DEVCHAR2
DEVCHAR2 = 1761673857   Hex = 69010281   Octal = 15100201201
```

DEVCHAR2 のビット 27 は、ボリュームがシンプロビジョニングであることを示す "thp" ビットです。DEVCHAR2 のビット 30 は、ボリュームが SCSI UNMAP をサポートしていることを示す "thp_unmap" ビットです。

仮想ボリュームでユーザーによる RECLAIM 機能の設定の表示 :

ユーザーによる RECLAIM 機能の設定は、以下のデバイスステータスで表示されます。

1. "SHOW DEVICE/FULL" DCL コマンド

例 :

```
$$SHOW DEVICE $1$DGA7 /FULL
Disk $1$DGA7: (KAUAI1), device type 3PARdata VV, is online, mounted, file-
oriented device, shareable, device has multiple I/O paths, served to cluster
via MSCP Server, error logging is enabled.
Volume Status: ODS-2, subject to mount verification, file high-water marking,
write-through XFC caching enabled, write-back XQP caching enabled, reclaim
enabled.
```

2. "SHOW DEVICE" SDA コマンド

例 :

```
SDA> SHOW DEVICE $1$DGA7:
--- Volume Control Block (VCB) 898EDC40 ---
Volume: DATA1           Lock name: DATA1
Status:      A0 extfid,system
Status2:     04 mountver
Status3:     00000080 reclaim
```

サポートされる構成：

OpenVMS の RECLAIM 機能は、次の HPE ストレージアレイで検証およびサポートされています。

- HPE 3PAR StorServ Storage Array Systems
- HPE Enterprise Virtual Array (EVA)/P6000
- HPE P9500/XP7 Storage systems

注意：

1. OpenVMS は、シンプロビジョニングおよび SCSI UNMAP コマンドをサポートする構成でのみ、RECLAIM 機能をサポートします。構成情報とストレージでの機能の有効化手順については、対応するアレイのドキュメントとサポートマトリックスを参照してください。

2. ホストモードオプション：OpenVMS ホストの XP-7 ストレージアレイで OpenVMS の RECLAIM 機能を使用するためには、WS2012 (HMO:73) のサポートオプションを有効にする必要があります。詳細は、XP-7 のドキュメントを参照してください。

制限事項：

1. RECLAIM 機能は、MSCP のデバイスではサポートされていません。カレントパスが MSCP のデバイスでは、SCSI UNMAP コマンドではなく、ゼロパターンを書き込むことによって再利用が可能です。

2. RECLAIM 有効のシャドウセットに RECLAIM 機能なしのデバイスを追加すると、シャドウセット・デバイスの RECLAIM 機能が無効になります。しかし、シャドウセットからこの RECLAIM 機能なしのデバイスを削除して、他のすべてのメンバで RECLAIM 機能が可能であっても、RECLAIM 機能は有効になりません。必要に応じて、set volume コマンドで RECLAIM 機能を有効にできます。

3. バインドされたボリュームまたはボリュームセットでは、RECLAIM 機能はサポートされていません。

4. ファイルの削除が行われている途中でストレージアレイの RECLAIM 機能が無効にされた場合、RECLAIM 処理は "ILLIOFUNC" エラーで終了し、通常の削除処理が続行します。

5. RECLAIM の完了ステータスは、ストレージ固有であり、OpenVMS では追跡できません。しかし、それぞれのストレージ管理ソフトウェアで取得することができます。

3.1 新機能

6. VMS クラスタ環境では、クラスタマウントされたボリュームに対し、1つのメンバーノードから SET VOLUME コマンドで RECLAIM 機能を有効にしても、他のクラスタメンバーでの RECLAIM 機能は有効になりません。したがって、他のクラスタノードでの削除では、データブロックの再利用はできません。すべてのクラスタメンバーノードで RECLAIM 機能を有効にするには、クラスタ全体でボリュームを再マウントする必要があります。

既知の問題：

1. RECLAIM 機能が有効なシャドウセットで、ファイルの削除が行われている途中で RECLAIM 機能なしのデバイスをシャドウセットに追加すると、この新しく追加されたメンバーがはずされる可能性があります。また、シャドウセットデバイスの RECLAIM 機能も無効になります。

2. 異機種ストレージレイ・メンバーで構成されるシャドウデバイスで delete /reclaim 操作が完了した後に ANALYZE/DISK/SHADOW コマンドが実行されると、"discrepancies outside the file system"メッセージが表示されることがあります。これは、ストレージサーバに実装されている RECLAIM アルゴリズムの差異によるものです。

関係するイメージ：

- [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]F11BXQP.EXE
- [SYS\$LDR]F11BXQP.STB
- [SYSEXE]INIT.EXE
- [SYSEXE]SYSINIT.EXE
- [SYSLIB]INIT\$SHR.EXE
- [SYSEXE]SHOW.EXE
- [SYSEXE]SET.EXE
- [SYSEXE]VMOUNT.EXE
- [SYSLIB]MOUNTSHR.EXE
- [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE
- [SYSMSG]SYSMSG.EXE
- [SYSMSG]SYSMSG.STB
- [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE
- [SYSLIB]DKLOG\$SDA.EXE
- [SYSUPD]DCLDICT.HLP
- [SYSUPD]INIT.CLD
- [SYSUPD]SET.CLD

3.2 解決される問題

VMS84I_UPDATE-V1300 アップデートキットにより解決される問題を以下に示します。なお以降の各項の冒頭に、当該問題を解決するアップデートキット内のパッチキット名を示しています。

3.2.1 CRTL stat() API は、特定の条件で、誤った st_ino (ファイル ID) 値を返すことがある

キット名： VMS84I_ACRTL-V0400

問題の説明：

_USE_STD_STAT が定義されていて、また、ファイルシーケンス番号フィールド (ファイル ID の 2 番目の部分) の上位ビットが設定されている場合、CRTL stat() API は誤った st_ino (ファイル ID) 値を返します。
この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001543598

回避策：

ありません

3.2.2 GNV CP コマンドは、特定の条件で "I/O error or accvio" を発生させる

キット名： VMS84I_ACRTL-V0400

問題の説明：

DECC\$POSIX_COMPLIANT_PATHNAMES 論理が設定されている場合、GNV CP コマンドは "I/O error or accvio" を発生させる可能性があります。内部的に CP コマンドは CRTL API を使用してソースからデスティネーションにファイルをコピーしますが、CRTL がメモリを破壊しているため GNV CP コマンドが "I/O error or accvio" を発生させていました。
この問題は CRTL で修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
PTR75-126-433

回避策：
ありません

3.2.3 CRTL lstat() API は、特定の条件で、"I/O channel"をリークすることがある

キット名： VMS84I_ACRTL-V0400

問題の説明：

入力されたパスが論理名サーチリストまたはノード名である場合、 CRTL lstat() API は "I/O channel"を 1 つリークします。
この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
PTR75-126-461

回避策：
ありません

3.2.4 "iconv.h"ヘッダーを使用する C および C ++ プログラムは、特定の条件でコンパイラの警告またはエラーを受け取ることがある

キット名： VMS84I_ACRTL-V0400

問題の説明：

_XOPEN_SOURCE_EXTENDED マクロが定義されているか_XOPEN_SOURCE が空の値で定義されている場合、 "iconv.h"ヘッダーを使用する C と C ++ プログラムは、それぞれ、コンパイラの BADCONSTEXPR 警告または EXPRIMEXPR エラーで失敗します。
この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DECC\$RTLDEF.TLB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
PTR75-126-462

回避策：
ありません

3.2.5 差分バックアップのリストアが "%RMS-F-SYN"エラーで失敗する

キット名：VMS84I_BACKUP-V0300

問題の説明：

ODS-5 ディスクにおいて、削除されるべきディレクトリやファイルの名前に特殊文字が含まれている場合、差分バックアップの復元が正常に動作しません。差分バックアップの復元は、以下のエラーで失敗します。

%RMS-F-SYN, file specification syntax error

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSEXE]BACKUP.EXE
- ・ [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001433337

回避策：

ありません

3.2.6 dbasic\$io_nosignal をコールした後、I/O オペレーションを行い成功した場合、後続の I/O オペレーションに "no signalling"状態が発生する

キット名：VMS84I_BASRTL-V0100

問題の説明：

I/O オペレーションの前に dbasic\$io_nosignal コールがあると、BASIC RTL は I/O が失敗した場合に RNF および EOF エラーを通知しません。しかし、この機能が、I/O が成功した場合の後続の I/O 操作にも継承されていました。これは、チャンネルに対応する RNF および EOF エラーをマスクするフラグがクリアされていないために発生していました。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSLIB]DEC\$BASRTL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001553135

回避策：

ありません

3.2.7 GET および UPDATE がエラーの場合、MOVE TO で MEMMANVIO エラーが発生する

キット名：VMS84I_BASRTL-V0100

問題の説明：

GET および UPDATE 文の I/O エラー・シグナリングは、これらの文の前に dbasic\$io_nosignal を呼び出すことで、無効にすることができます。しかし、失敗した GET/UPDATE 操作があり、それに MOVE TO 文が続き、同じチャンネルを使用すると、この文は Memory Magement violation (MEMMANVIO) エラーを生成します。

I/O エラーシグナリングが dbasic\$io_nosignal 呼び出しによって無効にされ、後続の GET/UPDATE が失敗すると、MOVE ステートメントで使用されるバッファが無効なアドレスに更新され、メモリ管理違反 (MEMMANVIO) が生成されます。この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DEC\$BASRTL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001553133

回避策：

ありません

3.2.8 "SET SECURITY" と "SHOW" コマンドの問題

キット名：VMS84I_CLIUTL-V0100

問題の説明：

VMS84I_SYS-V0700 キットによって、いくつかの SHOW および SET コマンドで ACCVIO エラー、または不正な表示が発生することがあります。この問題は、新しい OpenVMS の機能/コマンドを有効にするために、このキットで行われた変更の影響です。以下に示すように、エンジニアリングテストでは、SHOW INTRUSION、SET SECURITY、および SHOW SERVER ACME の各コマンドでこのような影響があることがわかりました。

1.

```
$ SHOW SERVER ACME
Number of Free Packets          *****

VM Zone Statistics:
%SYSTEM-F-ACCVIO, access violation, reason mask=70, virtual address=000000000000001B,
PC=0000033000030300, PS=43790008
```

```
Improperly handled condition, image exit forced.  
Signal arguments:  Number = 0000000000000003  
                   Name  = 000000000000000C 0000000000020A70 000000000000001B
```

```
Register dump:  
R0 = 0000000000000000 R1 = 000000007B546000 R2 = 000000007AC9F6B8  
....
```

2.

```
$ SHOW INTRUSION  
Intrusion      Type      Count      Expiration      Source  
Shared Memory !14<(!@UQ.!2ZL!AZ)!> !9@UQ  !9@UQ  !9@UQ  
NETWORK      INTRUDER    9  31-AUG-2016 11:22:12.85 LOCAL:.2SPQC::CTM  
$
```

3.

```
$ SET SECURITY/PROTECTION=(W:RW) 1.TXT/log  
%SET-I-ENTERED, !AS entered as !AS
```

関係するイメージ :

- [SYSEXE]SHOW.EXE
- [SYSEXE]SET.EXE
- [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE
- [SYSMSG]SYSMSG.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
PTR75-67-38

回避策 :
ありません

3.2.9 VMS84I-SYS-V0700 のインストール後、 DIR /SIZE コマンドはサイズ表示中に余分なスペースを出力する

キット名 : VMS84I_CLIUTL-V0300

問題の説明 :

QUIX Case #QXCM1001466795 の対応の一部として、エンジニアリングはバインドされたボリュームセットデバイスに正しいサイズを表示するために "DIR"機能を変更しました。 "DIRECTORY"コマンドで表示されるサイズは 14 桁で右揃えになり、ディレクトリの実際のサイズよりも前に空白が表示されていました。
この問題は修正されました。

関係するイメージ :

- [SYSEXE]DIRECTORY.EXE
- [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001530295

回避策：
ありません

3.2.10 OpenVMS V8.4 で DIRECTORY/DATE=MODIFIED コマンドが正しい日付
を表示しないことがある

キット名： VMS84I_CLIU TL-V0300

問題の説明：
DIRECTORY コマンドのコードは、\$ DIR/DATE=MODIFIED に対して ODS5 デ
ィスク上のファイルの変更日ではなく、リビジョン日付を表示しました。
この問題は修正されました。

関係するイメージ：
・ [SYSEXE]DIRECTORY.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001536634

回避策：
ありません

3.2.11 共有イメージをメインイメージとして実行すると、%DCL-W-ACTIMAGE,
error activating image 'string' で失敗することがある

キット名： VMS84I_CLIU TL-V0300

問題の説明：
共有可能イメージが/SHARED[=NOADDRESS_DATA]でインストールされている場
合、INSTALL ユーティリティは間違っ、グローバルセクションが作成されたこと
を示します。このようなイメージがメインイメージとして実行されると、イメージア
クティベータは誤った情報により、存在しないグローバルセクションのマップに失敗
します。
この問題は修正されました。

関係するイメージ：
・ [SYSEXE]INSTALL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001553790

回避策：
ありません

3.2.12 特定のシナリオでファイルからレコードを読み取っているときに、COBOL READ 操作で ACCVIO が発生することがある

キット名：VMS84I_COBRTL-V0100

問題の説明：

ファイルからレコードを読み込み中に COBOL READ 操作を実行すると、現在のキーと前のキーが比較され、キーサイズが異なるとアクセス違反が発生する可能性があります。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DEC\$COBRTL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001526800

回避策：
ありません

3.2.13 COBOL アプリケーションが、RMS ファイルを順に逆方向に読み取る時にクラッシュすることがある

キット名：VMS84I_COBRTL-V0100

問題の説明：

COBOL RTL は、すでにロックされている RMS レコードにアクセスしようとする時、ステータス値 'RMS-S-OK_RLK' を受け取ります。この時、ステータス値 'RMS-S-OK_RLK' は DEC\$COBRTL で正しく処理されていなかったため、RTL で再帰的な関数呼び出しが無限に行われました。最終的にプロセスがメモリ不足になりアクセス違反が発生しました。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYSLIB]DEC\$COBRTL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001464116

回避策：
ありません

3.2.14 クラスタのネットワークインターフェイスがダウンした場合にノードが CLUEXIT でクラッシュすることがある

キット名： VMS84I_DRIVER-V0400

問題の説明：

クラスタノード内のネットワークインターフェイスの1つがダウンしたときに IPCI クラスタ通信の問題がありました。それにより、ノードが CLUEXIT でクラッシュすることがあります。

この問題は、ノードに複数の IP ネットワークインターフェイスがある cluster over IP (IPCI) 環境で発生します。

選択されたチャンネルに基づいて PEDriver が要求した TCP/IP でソースインタフェースを選択する際に問題があります。これにより、アカウントिंगが正しく行われず、一貫性のない動作が発生し、バグチェック CLUEXIT が発生することがあります。

この問題は、PEDriver と TCP/IP により解決されています。したがって、この問題に対処するには、PEDriver と TC /IP パッチキットの両方をインストールする必要があります。

TCP/IP KIT = HPE-I64VMS-NET_PAT-V0507-13ECO5-4

この修正を有効にするには、sysgen パラメータ PE3 の 5 番目のビットを設定する必要があります。PE3 パラメータを変更した後は、ノードを再起動する必要があります。これは、クラスタのすべてのノードに対して実行する必要があります。

SYSGEN パラメータ PE3 の 5 番目のビットは次のように設定できます。

```
$ mc sysgen
SYSGEN>
SYSGEN> U C
SYSGEN>
SYSGEN> SET PE3 32
SYSGEN>
SYSGEN> W C
SYSGEN>
SYSGEN> EXIT
$
```

SYSGEN パラメータ PE3 にすでに他のビットが設定されている場合は、それに応じて値を調整してください。ビット 5 がセットされていることを確認し、ローリングリブートを実行してください。

この問題は修正されました。

関係するイメージ :

- [SYS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001462696

回避策 :
ありません

3.2.15 VMS84I_SYS-V0700 を使うと、消去とマークされたボリュームまたはファイルに対する非特権ユーザの削除操作は、-RMS-E-PRV- エラーによって、失敗することがある

キット名 : VMS84I_F11X-V0400

問題の説明 :

VMS84I_SYS-V0700 パッチキットをインストールしたシステムでは、消去とマークされたボリュームまたはファイルに対する明示的な、または暗黙の削除操作は、'-RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation' エラーで失敗する事があります。ファイルはファイルシステムコンテキストから削除されて、ユーザーから見えませんが、消去操作が削除されたブロックの上でなされておらず、それらの LBN が上書きされるまで、実際のファイル内容はディスクの上に残っています。

影響のある DCL コマンドの一般的な例は以下のものです。

1.

```
$ del/erase TEST.TXT;  
%DELETE-W-FILNOTDEL, errordelleting SYS$SYSROOT:[SYSMGR]TEST.TXT;1  
-RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation  
$
```

2.

```
$ create NEWTEST.TXT  
TESTING  
Exit  
%CREATE-E-CLOSEOUT, error closing SYS$SYSROOT:[SYSMGR]NEWTEST.TXT;1 as output  
-RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation  
$
```

3.

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

```
$ purge TEST.TXT
%PURGE-W-FILNOTPUR, error deleting SYS$SYSROOT:[SYSMGR]TEST.TXT;2
-RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation
%PURGE-W-FILNOTPUR, error deleting SYS$SYSROOT:[SYSMGR]TEST.TXT;1
-RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation
$
```

この問題は修正されました。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]F11BXQP.EXE
- ・ [SYS\$LDR]F11BXQP.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
PTR75-130-92

回避策 :
ありません

3.2.16 SAN からブート中に、 I/O データベースの不整合の bugcheck でシステムがクラッシュする

キット名 : VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明 :

特定の SAN 環境では、SAN からのブート時にクラスドライバがタイムアウトして、システムクラッシュします。このタイムアウトは、下層のポートドライバが PGQDRIVER で、それがデバイス ID (UDID) を取得できない場合に発生します。クラッシュの発生前に、以下のポート待ちメッセージが何度もコンソールに表示されます。

```
%DK-W-PORT_WAIT, Waiting for port
%DK-W-PORT_WAIT, Waiting for port
```

そして、I/O データベースの不整合の bugcheck によりシステムクラッシュします。この問題は修正されています。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001421244

回避策 :
ありません

3.2.17 ストレージ・デバイスの断続的なパス障害

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

Brocade スイッチのファームウェア更新、または HAREBOOT コマンドが実行された場合、OpenVMS サーバは Brocade スイッチで接続されたストレージ・デバイスへのパスを失うことがあります。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$PGQDRIVER.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$PGQDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001429085, QXCM1001397119, QXCM1001455189

回避策：

ホストサーバが接続されている FC スイッチのポートを無効にしてから有効にします。

3.2.18 SDA の FC SHOW NS コマンドにより、システムクラッシュが発生することがある

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

ネーム・サーバーを照会中に、null データを処理すると、INVEXCEPTN のシステムクラッシュが発生しました。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$FGEDRIVER.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$FGEDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

PTR75-126-450

回避策：

ありません

3.2.19 OpenVMS 性能監視ツールは、SAN デバイスのプライマリ・パスが MSCP の場合、SAN デバイスの性能データを収集することができない

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

OpenVMS の性能監視ツールは、性能データの収集でプライマリ・パスを使用します。しかし MSCP パスがプライマリ・パスの場合、MSCP パスには性能の詳細データが含まれないという機能制限があるので、このようなデバイスの性能データが収集できません。

この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGADRIVER.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGADRIVER.STB
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001443437

PTR75-126-452

回避策：

ありません

3.2.20 MSA\$UTIL では、2TB を超える SAS ディスクの設定ができない

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

SCSI で使用されるローカルデータ構造は、旧バージョンのファームウェア仕様に準拠していませんでした。そのため、不正確なディスクサイズ値が取得されていました。この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSEXE]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001430152

PTR75-126-446

回避策：

ありません

3.2.21 SYSMAN IO LIST コマンドは、使用可能な SAS テープドライブを未構成と表示する

キット名： VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

テープのデバイス情報を取得中に、誤ったターゲット ID が送信されていました。このため、テープドライブが未構成と認識されました。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSLIB]SMI\$OBJSHR.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001416468

回避策：

ありません

3.2.22 SAS テープドライブの WWID が、SHOW DEVICE および F\$GETDVI の出力に表示されない

キット名： VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900

問題の説明：

SAS テープドライブの WWID が、次のコマンドの出力に表示されませんでした。

- ・ SHOW DEVICE /FULL
- ・ WRITE SYSS\$OUTPUT F\$GETDVI("\$2\$MGAx:", "WWID")

テープ・デバイス・ドライバのロード時に WWID が提供されていませんでした。このため、表示することができませんでした。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSLIB]IOGEN\$CISS_CONFIG.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001416468

回避策：

ありません

3.2.23 3PAR デバイスをリモートコピーグループに追加する、または削除すると、OpenVMS からデバイスにアクセスできなくなることがある

キット名： VMS84I_FIBRE_SCSI-V1000

問題の説明：

3PAR デバイスをリモートコピーグループに追加する、または削除すると、デバイスのターゲットポートグループ (TPG) 番号が変更されます。しかし OpenVMS はこのデバイスの TPG 番号の変更に対応していませんでした。

関係するイメージ：

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001489977

回避策：
ありません

3.2.24 ノンページプールの破壊により、さまざまなシステムクラッシュが発生する

キット名： VMS84I_FIBRE_SCSI-V1000

問題の説明：

PGQdriver による ノンページプールの破壊のため、いろいろなモジュールでシステムクラッシュが発生します。このドライバは、特定のシナリオで特定のタイプのトランスポート層リクエストに対するレスポンスバッファの割り当てを解除しません。このため、コマンドポスト処理のために期限切れバッファの情報を再利用すると、ノンページプールの破壊が生じました。

関係するイメージ：

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.STB
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001506231, QXCM1001505936, QXCM1001522037

回避策：
ありません

3.2.25 SYS700 キットでは、RECLAIM が可能でないメンバーを持つシャドウ・セット上の RMS 関連のファイル作成は、ILLIOFUNC エラーで失敗する

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V1100

問題の説明：

SYS700 キットを使用すると、システム上で XFC が無効になっているときに、RECLAIM が可能でないメンバーを含むシャドウセットに RMS 関連ファイルを作成すると、ILLIOFUNC エラーが発生します。この問題は、特定の状況下で DKDRIVER が内部の消去要求を IO RECLAIM と解釈することによるものです。この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$DKDRIVER.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$DKDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001549353

回避策：
ありません

3.2.26 手動パス切り替え操作が SYSTEM-E-INVMVIP エラーで失敗する

キット名：VMS84I_FIBRE_SCSI-V1100

問題の説明：

3 個より多いデバイスを持つシャドウ・セット内のシャドウ・メンバ・デバイスに対する手動での切り替え操作は、INVMVIP エラーで失敗します。pathverip フラグは、パスが切り替えられた後でも、4 番目以降のメンバーデバイスではクリアされませんでした。これにより、パス切り替えの障害が発生します。この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]MULTIPATH.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]MULTIPATH.STB
- ・ [SYSS\$LDR]MULTIPATH_MON.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]MULTIPATH_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001524834, QXCM1001553462, QXCM1001532643

回避策：
ありません

3.2.27 マウントが "%MOUNT-F-FILESTRUCT" エラーで失敗する事がある

キット名： VMS84I_MOUNT96-V0300

問題の説明：

一定の状況の下で、マウントコマンドは以下のエラーによって失敗することがあります。

%MOUNT-F-FILESTRUCT, unsupported file structure level

この問題は mount/foreign コマンドでも起こる事があります。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSLIB]MOUNTSHR.EXE
- ・ [SYSEX]VMOUNT.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001484645

回避策：

ありません

3.2.28 ANALYZE/RMS_FILE/CHECK は、BACKUP/IGNORE=INTERLOCK コマンドで作成されたバックアップ・ファイルの領域ディスクリプタの矛盾を検出できない

キット名： VMS84I_RMS-V0600

問題の説明：

同時にレコードの挿入が行われている時に、BACKUP/IGNORE=INTERLOCK コマンドを使用して RMS インデックスファイルをバックアップすると、領域ディスクリプタの AREASL_NXTVBN フィールドの次の空き VBN に不正な値が記録されるタイミングがあります。この結果、数回の SYSSPUT 操作後に RMS ループエラーが発生します。

ANALYZE/RMS_FILE/CHECK コマンドが拡張され、この不整合を検出し、この予期した動作をユーザーに警告するようになりました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSEX]ANALYZRMS.EXE
- ・ [SYSUPD]ANALYZE.CLD

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001292631, QXCM1001278850, QXCM1000991891

PTR75-13-2218

回避策：

Convert ユーティリティを使用することで、このような矛盾をファイルから削除することができます。

3.2.29 SYS\$FILESCAN により、プロセスの終了やシステム・クラッシュが発生する可能性がある

キット名：VMS84I_RMS-V0600

問題の説明：

システム・サービス SYS\$FILESCAN によってプロセスが異常終了することがあります。これは、ノード数が 8 以上のファイル指定が渡されたときに発生します。SYSGEN パラメータ BUGCHECKFATAL が 1 に設定されていると、システムクラッシュが発生します。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

・ [SYS\$LDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001329526

回避策：

SYS\$FILESCAN()に渡される文字列のノード数が 8 を超えないようにします。

3.2.30 Extended File Specifications でのディレクトリ名のリスト表示が失敗することがある

キット名：VMS84I_RMS-V0600

問題の説明：

ディレクトリ検索でワイルドカード (*) を使用すると、Extended File Specifications (EFS) の有効なディレクトリ名でエラーが発生することがあります。

-RMS-E-DNF, directory not found

ワイルドカードと省略を含む特定のディレクトリ検索パターン

は、<name1>^.<name2>.DIR という形式のディレクトリ名に対して、ファイルの検索に失敗する可能性があります。これは、name1 と name2 がディレクトリ名の一部で、特殊文字ドット (.) の前後にある場合に発生します。

次の例では、ディレクトリリストコマンドは失敗します。"DIR_TEST^.WITH_DOT.DIR"は、SYS\$SYSDEVICE:[TEST]に作成されたディレクトリ名です。name1 は「DIR_TEST」、name2 は「WITH_DOT」です。

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題

3.2 解決される問題

```
$ SET PROCESS/PARSE_STYLE=EXTENDED
$ CREATE/DIR [.DIR_TEST^.WITH_DOT]/LOG
%CREATE-I-CREATED, SYS$SYSDEVICE:[TEST.DIR_TEST^.WITH_DOT] created

$ DIR [.*TEST*...]
%DIRECT-W-NOFILES, no files found

$ DIR [.*WITH*...]
%DIRECT-E-OPENIN, error opening SYS$SYSDEVICE:[TEST.*WITH*...]*.*;* as input
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
```

ディレクトリ名が "<name1>^.<name2>^.<name3>.DIR" の形式の場合、問題は <name3> の文字についてのみ発生し、<name1> や <name2> では起こりません。この問題は修正されました。

関係するイメージ :

- [SYS\$LDR]RMS.EXE
- [SYS\$LDR]RMS.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001396489
PTR75-120-1622

回避策 :
ありません

3.2.31 RMS エグゼクティブモードのアラインメント・フォルト

キット名 : VMS84I_RMS-V0600

問題の説明 :

RMS ルーチン rms\$copy_starting_at_dev および rms\$copy_name_to_nam のアラインメントフォルトの数を減らしました。

関係するイメージ :

- [SYS\$LDR]RMS.EXE
- [SYS\$LDR]RMS.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
PTR75-74-440

回避策 :
ありません

3.2.32 RMS-F-BUG, fatal RMS condition (FFFFFFC0), BADGBH の修正

キット名：VMS84I_RMS-V0600

問題の説明：

RIGHTLIST.DAT および SYSUAF.DAT で RMS グローバルバッファが有効になっていると、定期的に RMS のバグチェックが発生しました。

```
%RMS-F-BUG, fatal RMS condition (FFFFFFC0), process deleted
```

この問題が発生すると、ログインできなくなり、解決するためにはシステムを再起動する必要があります。RMS のコンディション FFFFFFFC0 は BADGBH に対応し、RMS グローバルバッファを新しいファイルオープンに使用しようとする、不正なグローバルバッファヘッダーが検出されます。

通常のクローズ（またはイメージのランダウン）がラストチャンス・アボート・ランダウンによって中断された場合、命令間の小さなタイミング・ウィンドウを修正します。これにより、RMS グローバルバッファの内部キュー GBIS 構造が破損し、問題が発生する可能性があります。

関係するイメージ：

- ・ [SYSSLDR]RMS.EXE
- ・ [SYSSLDR]RMS.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001459710

回避策：

ありません

3.2.33 特定のシナリオで、プロセスの RMS ディレクトリキャッシュが更新されない

キット名：VMS84I_RMS-V0600

問題の説明：

まれに、複数のプロセスが同じボリューム上でディレクトリの削除や名前の変更を同時に行っている場合、プロセスが RMS ディレクトリキャッシュの定期的な更新をしないことがあり、予期しない動作につながる可能性があります。次の例を参照してください。

```
$ RENAME/LOG DATA1:[TEMP.DIR2]B.DIR A.DIR  
%RENAME-I-RENAMED, DATA1:[TEMP.DIR2]B.DIR;1 renamed to DATA1:[TEMP.DIR2]A.DIR;1
```

```
$ CREATE/DIR/LOG DATA1:[TEMP.DIR2.B]  
%CREATE-I-EXISTS, DATA1:[TEMP.DIR2.B] already exists
```

ここでは、ディレクトリ "B" は初めのステップで "A" に変えられていますが、CREATE コマンドは、ディレクトリ "B" が存在するという誤ったメッセージを出しています。

この問題は修正されました。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]RMS.EXE
- ・ [SYS\$LDR]RMS.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001463273

回避策 :
ありません

3.2.34 RMS でディレクトリツリーを走査中に "...DIR" という名前のサブディレクトリは無視するように変更された

キット名 : VMS84I_RMS-V0600

問題の説明 :

RMS は POSIX パス名をサポートしているので、ODS-5 の filename "...DIR" の使用は制限されなければなりません。対応する POSIX 名 ".." は、親ディレクトリを指す特別な意味を持ちます。

したがって、"...DIR;1" という名前のディレクトリが存在する場合、ディレクトリツリー走査で無視されるように、RMS に変更が加えられました。

POSIX 命名のサポートの詳細については、HP OpenVMS C ランタイム・ライブラリ・リファレンス・マニュアルを参照してください。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]RMS.EXE
- ・ [SYS\$LDR]RMS.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001511640

回避策 :
ありません

3.2.35 INIT/ERASE コマンドは、サイズが 1TB より大きいディスクでデータセキュリティ消去 (DSE) 操作に失敗することがある

キット名 : VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

サイズが 1TB より大きいディスクでは、DCL コマンド INIT/ERASE は成功しますが、ディスクブロックに対するデータセキュリティ消去 (DSE) 操作を実行していません。

関係するイメージ：

- ・ [SYSLIB]INITSSHR.EXE
- ・ [SYSLIB]MOUNTSHR.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001318813

回避策：

ありません

3.2.36 マルチスレッドのプロセスの停止時のランダムなクラッシュ

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

セカンダリ のカーネルスレッドの停止時の同期問題が発見されました。プライマリのカーネルスレッドが、プロセスの現在の仮想アドレス空間を反映しない無効なアドレス空間 (ASN/RID) を使うことがあります。

まれに起きるこの問題により、明白なレジスタ破損、P1/RDE プール破損、および潜在的なノンページプール破損などを含むさまざまなクラッシュがプロセス停止時に発生する可能性があります。

この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001428470, QXCM1001426435, QXCM1001408110,
QXCM1001407188, QXCM1001395517, QXCM1001367103,
QXCM1001361311, QXCM1001320206, QXCM1001237582,
QXCM1001217716

回避策：

ありません

3.2.37 プロセスごとの P1 プール・ヒストリー・リング・バッファの有効化

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

SYSTEM_PRIMITIVES は、SYSTEM_CHECK がゼロでない時に P1 プールメモリーーク追跡の援助に使われるプロセスごとの P1 プールリングバッファを持っています。(リングバッファの中で allocate されたけれども deallocated されないパケットを追跡し、それらをリングバッファのトップに移動させます)

P1 プールのメモリー破壊を追跡するため、割り当てと割当て解除を追跡する、一般的なプロセスごとの P1 プール・ヒストリー・リング・バッファを SYSTEM_PRIMITIVES_MIN は許可します。それはデフォルトで有効化されないけれども、ACTIVE SYSGEN パラメータ POOLCHECK のブートビット 7 が設定された時、作成されるプロセスにバッファを設定します。リングバッファは SDA コマンド SHOW PROC/POOL=P1/RING によって見られることができます。リングバッファは、ACTIVE SYSGEN パラメータ POOLCHECK のビット 7 をクリアすることによって、その後のプロセスで無効にすることができます。このメカニズムは P1 プール・ヒストリー・リング・バッファを作りますが、問題のトラブルシューティングに必要な時だけ、それが有効化されます。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB
- ・ [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- ・ [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：
QXCM1001428470

回避策：
ありません

3.2.38 SHOW DEVICE コマンドのアドレス表示問題

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

デバイスがシャドウセットバーチャルメンバーである時の表示の問題を修正しました。

関係するイメージ :

- ・ [SYSEXEXE]SHOW.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :

PTR75-13-2599

回避策 :

ありません

3.2.39 SYSGEN の ACP_*CACHE パラメータの最大値の指定

キット名 : VMS84I_SYS-V0700

問題の説明 :

いくつかの ACP_*CACHE SYSGEN パラメータは 16 ビットのワードフィールドに格納されます。従って、その最大値は符号なしの 65535 に制限されます。しかし、SYSGEN(および AUTOGEN) はこの最大値を -1 とみなし、これらの値が、ワードフィールドをはみだす値になることがあります。しかし値が切りつめられるので、再起動において、意図していた値よりずっと小さなキャッシュとなり、その結果、低いパフォーマンスとなる可能性があります。

SYSGEN および関連したユーティリティにおいて 65535 の限界が指定されました。これは ACP_MAPCACHE、ACP_HDRCACHE ACP_DIRCACHE、ACP_DINDXCACHE、ACP_FIDCACHE ACP_EXTCACHE および ACP_SYSACC と ACP_WORKSET のワード最大値に影響します。

関係するイメージ :

- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$BASE_IMAGE.EXE
- ・ [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSGEN.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSBOOT.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSMAN.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SMISERVER.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :

PTR75-74-425

回避策 :

ありません

3.2.40 多くのストレージ装置を持つサーバーでのシステム空間の損失

キット名 : VMS84I_SYS-V0700

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

問題の説明：

rad のキャッシュの中に再使用可能な KPB があるかどうかとは無関係に、DK/DG デバイスはデフォルトで新しい KPB をユニット初期設定に割り当てます。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001406945

PTR75-126-444

回避策：

ありません

3.2.41 強制的なパススイッチ時に、SYSTEM-E-INVMVIP エラーメッセージが表示される

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

ストレージ装置のマニュアルでのパススイッチ時に、PATHVERIP ビットがパス回復の後でもクリアされないと、以下のエラーが報告されることがあります。

```
-SYSTEM-E-INVMVIP, path switch invalid while device is in  
mount verification
```

関係するイメージ：

- [SYSS\$LDR]MULTIPATH.EXE
- [SYSS\$LDR]MULTIPATH.STB
- [SYSS\$LDR]MULTIPATH_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]MULTIPATH_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001427758

PTR75-126-445

回避策：

ありません

3.2.42 MPSYNCH 時間を減らすための改良

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

大きなシステムにおいて、DECnet の多用は IOLOCK8 spinlock の高い競合をおこします。大きなマルチプロセッシングシステムの多くのプロセスがフォーク処理に必要な同じ spinlock で競合を起こすと、システムは MPSYNCH 時間が長くなり、全体的な性能が低下する事があります。

SYSGEN パラメータ SCHED_FLAGS のビット 8 がセットされると、OpenVMS のフォーク処理は、複数のフォーク呼出しの中で、最大 61 マイクロ秒の間、またはフォーク spinlock が変更されるまで、あるいはフォークキューが空になるまで、同じ spinlock を保持することができます。フォーク処理中に spinlock が保持されるたびに、より多くのフォーク処理を実行することによって、その spinlock のために競合している MPSYNCH の合計時間を潜在的に減らすことができます。

この変更は SYSTEM_PRIMITIVES_MIN バージョンの execlet だけで、SCHED_FLAGS のビット 8 が設定されている場合のみに影響します。SYSTEM_PRIMITIVES(完全なチェック) バージョン execlet は変化がありません。

関係するイメージ：

- [SYSLIB]LIB.MLB
- [SYSLIB]LIB.L32
- [SYSLIB]LIB.L64
- [SYSLIB]LIB.R64
- [SYSLIB]LIB.REQ
- [SYSLIB]SYS\$LIB_C.TLB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

PTR75-74-438

回避策：

ありません

3.2.43 グローバル・セクション・テーブルトレースの拡張

キット名：VMS84I_SYS-V0700

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

問題の説明：

SYSGEN パラメータ MMG_CTLFLAGS のビット 7 が設定された場合、グローバル・セクション・テーブルトレースを拡張します。問題の原因究明のために OpenVMS エンジニアリングによって勧められた場合以外、通常この追加のトレースはオフです。

関係するイメージ：

- [SYSS\$LDR]SYSS\$VM.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSS\$VM.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QulX と PTR ケース：

QXCM1001397830

PTR75-13-2605

回避策：

ありません

3.2.44 バインドされたボリューム・セットへの Fast I/O での Bugcheck

キット名： VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

いくつかのバインドされたボリューム・セットに Fast I/O を使うことは SYSS\$DKDRIVER における INCONSTATE を結果として生じることがあります：

Crashdump Summary Information:

Bugcheck Type: INCONSTATE, Inconsistent I/O data base
CPU Type: hp AlphaServer ES80 7/1150
VMS Version: V8.3
Failing PC: FFFFFFFF.8056650C SYS\$DKDRIVER+1050C
Failing PS: 08000000.00000804
Module: SYS\$DKDRIVER (Link Date/Time: 13-MAY-2010
Offset: 0001050C 22:02:49.90)

または、

Crashdump Summary Information:

Bugcheck Type: INCONSTATE, Inconsistent I/O data base
CPU Type: HP rx2660 (1.59GHz/9.0MB)
VMS Version: V8.4
Failing PC: FFFFFFFF.80F0C020 DK\$FP_COMPLETE_IO_C+00900
Failing PS: 00000000.00000803
Module: SYS\$DKDRIVER (Link Date/Time: 5-FEB-2013 15:34:39.62)
Offset: 00043520

関係するイメージ :

- [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES.EXE
- [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES.STB
- [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :

QXCM1001370158, QXCM1001448106
PTR75-126-411

回避策 :

ありません

3.2.45 一時的なノンページブル枯渇のより速い処理

キット名 : VMS84I_SYS-V0700

問題の説明 :

lookaside リストからメモリーを再利用し、可変ノンページブルフリーリストをフラグメントする時、一時的なノンページブル拡張とその枯渇は CPUSPINWAIT、CLUEXIT、および他の bugchecks を引き起こすことがあります。

そのような過渡条件から、より迅速に、大規模な lookaside リストの再利用なしで、回復するため、ノンページブルエリア (NPAGEVIR) の上部 1/16 番目を可変のノンページブルリストのために確保します。この変化は、ノンページブルが NPAGEVIR 最大値に近くなるシステムのみに影響します。従ってほとんどのシステムには目立った影響を与えません。

ノンページブル破損を突き止めることを助けるため、新しいコントロールが POOLCHECK SYSGEN パラメータに追加されています。SYSTEM_CHECK が 0 で、POOLCHECK ビット 6 が設定されると (低いバイトの他のビットはクリア)、2 番目のバイト (ビット 8-15) がチェックされ、それが特定の packetsize かどうかを確認されます。この 2 番目のバイトの値が 1 から 254 の間であるならば、そのバイトに 64 を掛けた packetsize (サイズが 64 から 16256 バイトの packetsize) だけがプールヒストリリングバッファに含まれます。

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

これは、調査されているサイズのケットだけを含めることでリングバッファの中で他のケット活動の「ノイズ」を減らします。

例えば、あなたが 576 バイトのサイズのケットを調べているなら、あなたは、POOLCHECK を、次をできるようにセットすることができます：

%x00000040 - ケットをマークせず、チェックしません。ただし、リングバッファのすべてのサイズのケットをトレースします。ビット 6 は設定されていますが、第 2 バイトは 0 なのでサイズは指定されていません。

%x00000940 - ケットをマークせず、チェックしません。ただし、576 バイトのケットのすべての割り当て、割り当て解除をトレースします。(2 番目のバイトで $9*64=576$ バイトがチェックするケット)。ケットをチェックしないことは、POOLCHECK を有効化のオーバーヘッドを減らします。

%x61640943 - すべてのケットをマークし、チェックします。ただし、ノンページプールヒストリリングバッファの 576 バイトのケットのみを含めます。

%x61640003 - すべてのサイズのケットをマークし、チェックします。また、下のバイトのビット 6 が設定されないので、すべてのサイズのケットをトレースします。

%x616400FF - すべてのサイズのケットをマークし、チェックします。また、下のバイトのビット 6 が設定されないので、リングバッファのすべてのサイズのケットをトレースします。

関係するイメージ：

- ・ [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- ・ [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001380245, QXCM1001399095

PTR75-74-320

回避策：

ありません

3.2.46 MMG\$FIND_GSTE_C でのアクセス違反によるシステム・クラッシュ

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

MMG\$FIND_GSTE_C の無効なレジスターの内容からグローバル・セクション・デスク립タアドレスへアクセスし、システムはアクセス違反のためクラッシュします。

この問題は修正されています。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$VM.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$VM.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
QXCM1001477127

回避策 :
ありません

3.2.47 イメージ起動時に PROCSECTCNT 制限で、プロセスが SECTBLFUL エラーで終了する

キット名 : VMS84I_SYS-V0700

問題の説明 :

アプリケーションが、/SHARE でインストールされていない数千のイメージを呼び出す場合、アプリケーションは、イメージ起動時に PROCSECTCNT 制限に達し、SECTBLFUL エラーで終了する事があります。

そのようなアプリケーションデザインに適応するため、制限値は 2048 から 4096 に変更されました。ただし、PROSECTCNT の上限は、引き続き 2048 を推奨します。値を 2048 より高くすることは S0/S1 スペースへの悪影響を与える可能性があり、2048 以内に設定するように強く推奨します。

HPE は 2048 またはそれ以下の値のコンフィギュレーションのみをサポートします。2048 より大きな値を利用される場合は HPE サポートにご連絡ください。

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]SYS\$BASE_IMAGE.EXE
- ・ [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSGEN.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSBOOT.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SYSMAN.EXE
- ・ [SYSEXEXE]SMISERVER.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :
PTR75-126-457

回避策 :
ありません

3.2.48 ローカル MG デバイスにアイテムコード DVI\$_CLIENT_DEVICE で\$GETDVI を呼んだ時、システムは SSRVEXCEPT でクラッシュする

キット名： VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

サービスされていないローカル MG デバイスへのアイテムコード DVI\$_CLIENT_DEVICE での SYSS\$GETDVI 呼び出しは、デバイス UCB から CDDDB データ構造にアクセスする間に、システム・クラッシュを起こします。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES.STB
- ・ [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES_MON.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]IO_ROUTINES_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001451374

PTR75-126-455

回避策：

ありません

3.2.49 WCBFCBMNG bugcheck でのシステム・クラッシュ

キット名： VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

1TB 以上のサイズのファイルをバックアップする間に、一定の条件の下で、システムは WCBFCBMNG bugcheck でクラッシュする事があります。
この問題は修正されています。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]F11BXQP.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]F11BXQP.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001481354

回避策：

ありません

3.2.50 DIRECTORY/GRAND_TOTAL/SIZE コマンドが不正確な合計を表示する

キット名：VMS84I_SYS-V0700

問題の説明：

バインドされたボリューム・セットの中で1つのディレクトリの中のファイルの合計サイズが2TBを越えた時に、DIRECTORY/GRAND/SIZE コマンドは不正確な全体のサイズを報告します。

関係するイメージ：

- ・ [SYSEXE]DIRECTORY.EXE
- ・ [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE

この問題を報告している QulX と PTR ケース：

QXCM1001466795

回避策：

ありません

3.2.51 ロック値ブロックシーケンス番号のオーバーフロー動作の修正

キット名：VMS84I_SYSLOA-V0300

問題の説明：

これは、OpenVMS V4.0 から存在していた VMS Distributed Lock Manager の昔からあるバグです。ロック値ブロックシーケンス番号は32ビット値として格納され、特定のロック値ブロックへの十分なロック操作が発生した場合にオーバーフローする可能性があります。これにより、ロック値のブロック照会中に誤った値が返される可能性があります。

この問題について報告された症状は次のとおりです。

- ・ ディレクトリファイルの誤った順序のブロック
- ・ ファイルの紛失
- ・ 削除されたファイルの再現
- ・ XQPERR バグチェック

これらの例はすべて、オーバーフローがファイルシステムで引き起こす可能性のある影響によるものです。他のアプリケーションでは、ロック値ブロックの使用方法によってまったく異なる症状が生じることがあります。

このパッチキットは、シーケンス番号フィールドがオーバーフローしても、ロック値のブロック順序を正しく決定することで問題を軽減します。

この問題は修正されました。

VMS84I_UPDATE-V1300 キットで提供される新機能および解決される問題
3.2 解決される問題

関係するイメージ :

- ・ [SYS\$LDR]LOCKING.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER.EXE
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.EXE
- ・ [SYS\$LDR]LOCKING.STB
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER.STB
- ・ [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :

QXCM1001528789, QXCM1001497792, QXCM1001534739,
QXCM1001520309, QXCM1001493689, QXCM1001561155

回避策 :

ありません

3.2.52 メモリリークにより UCM サーバが UCM イベントログファイルの作成に失敗する

キット名 : VMS84I_USB-V0200

問題の説明 :

システムを数日間実行した後、UCM サーバが UCM イベントログファイルの作成に失敗することがあります。この場合、以下のように OPCOM エラーメッセージがコンソールに表示されます。

```
%USB-E-CREATELOGFAIL, The UCM Server could not create the UCM event log file
```

関係するイメージ :

- ・ [SYSEXE]USB\$UCM_SERVER.EXE

この問題を報告している QuIX と PTR ケース :

QXCM1001369911
PTR75-126-414

回避策 :

ありません

3.2.53 USB VKVM デバイスの構成時に SYS\$OHCIDRIVER で INVEXCEPTN が起こる

キット名 : VMS84I_USB-V0200

問題の説明：

SYSS\$OHCIDRIVER ドライバが、USB VKVM デバイスを構成する際に、特定の条件で存在しない内部データ構造にアクセスしようとします。これにより、アクセス違反やシステムクラッシュが発生することがありました。

この問題は修正されました。

関係するイメージ：

- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$OHCIDRIVER.EXE
- ・ [SYSS\$LDR]SYSS\$OHCIDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX と PTR ケース：

QXCM1001522289

回避策：

1. 仮のデバイスの自動読み込みを無効にする
\$ ucm SET AUTO/DISABLE=(LOAD)
2. パーマネントリストから仮想キーボードとマウスデバイスを削除する

```
$ ucm DELETE DEVICE KBD0:
```

```
$ ucm DELETE DEVICE MOU0:
```

注：DELETE DEVICE はデバイスをパーマネントリストから削除し、一時リストに移動します。ADD DEVICE <KBD0:>で、デバイスを再びパーマネントリストに追加します。

3. サーバーを再起動します。

OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキット についての情報

VMS84I_UPDATE-V1300 キットは、これまでに OpenVMS Integrity V8.4 に対してリリースされたアップデートキットを含む累積キットになっています。本書の第 3 章では、今回新たに含まれるパッチキットに関する情報を提供していますが、以前のアップデートキットにも含まれているパッチキットに関する情報は、本キットと共にインストールされる以下のリリース・ノートで参照できます。

- [SYSHLP]VMS84I_ACMELDAP-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ACMELDAP-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ACRTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ACRTL-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ACRTL-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ACRTL-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_BACKUP-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_BACKUP-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_BACKUP-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_BASRTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_CLIUTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_CLIUTL-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_CLIUTL-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_COBRTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DCL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DDTM-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DEBUG-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DRIVER-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DRIVER-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DRIVER-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_DRIVER-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ENCRYPT-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_ENCRYPT-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_F11X-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_F11X-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_F11X-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_F11X-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0100.RELEASE_NOTES

- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0600.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0700.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0800.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V0900.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V1000.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FIBRE_SCSI-V1100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_FORRTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_IPC-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_IPC-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_IVMSLOA-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_IVMSLOA-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_JOBCTL-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LAN-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LAN-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LAN-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LAN-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LAN-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LDAP-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LDAP-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LIBOTS-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LMF-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LOADSS-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LOGINPLUS-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_LOGINPLUS-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MANAGE-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MANAGE-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MIME-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MOUNT96-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MOUNT96-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MOUNT96-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MSCP-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MUP-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MUP-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MUP-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MUP-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_MUP-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RAMDISK-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0300.RELEASE_NOTES

- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_RMS-V0600.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SECSRV-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SHADOWING-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SHADOWING-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SHADOWING-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SORT32-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0400.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0600.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYS-V0700.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYSLOA-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYSLOA-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_SYSLOA-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_TDF-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UAF-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0300.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0500.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0600.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0700.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0800.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V0900.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V1000.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V1100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_UPDATE-V1200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_USB-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_USB-V0200.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_XFC-V0100.RELEASE_NOTES
- [SYSHLP]VMS84I_XFC-V0200.RELEASE_NOTES

これらをインストール前に参照したい場合は、次に説明するコマンドでキットから取り出すことができます。

- 一度にすべてのリリース・ノートを取り出すには、次のコマンドを使用します。

```
$ PRODUCT EXTRACT RELEASE_NOTES VMS84I_UPDATE /VERSION=V13.0 -  
_ $ [/file=destination_directory]
```

OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキットについての情報

- 特定のリリース・ノートを取り出すには、次のコマンドを使用します。

```
$ PRODUCT EXTRACT FILE VMS84I_UPDATE /VERSION=V13.0 -  
_$_ /SELECT=release_note_name [/DESTINATION=destination_directory]
```

個々の RELEASE_NOTES ファイルの名前は次のコマンドで確認できます。

```
$ PRODUCT LIST VMS84I_UPDATE /VERSION=V13.0 /SELECT = *.RELEASE_NOTES
```

なお、VMS84I_UPDATE-V0600 ~ VMS84I_UPDATE-V1200 の日本語リリースノートについては、下記の URL の OpenVMS の Web サイトで提供されています。

<http://h50146.www5.hp.com/products/software/oe/openvms/manual/>

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

イメージファイルには、イメージ識別情報を付けています。

- [SYSEXEXE]ACC.EXE

イメージ名:	"ACC"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-16"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	23-MAY-2011 12:08:23.55	チェックサム:	28484EA0

- [SYSS\$LDR]ACME.EXE

イメージ名:	"ACME"	ビルド ID:	"0100000167"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-MAY-2015 15:08:44.13	チェックサム:	C3398391

- [SYSEXEXE]ACMELOGIN_LOGINOUT.EXE

イメージ名:	"LOGINOUT"	ビルド ID:	"0100000072"
ファイル ID:	"LOGIN98 X-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-APR-2012 11:53:34.16	チェックサム:	FE609706

- [SYSEXEXE]ACMELOGIN_SETP0.EXE

イメージ名:	"SETP0"	ビルド ID:	"0100000072"
ファイル ID:	"LOGIN98 X-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-APR-2012 11:54:30.43	チェックサム:	42BF2AD2

- [SYSEXEXE]ACME_SERVER.EXE

イメージ名:	"ACME_SERVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-42"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:03.58	チェックサム:	65AB664B

- [SYSEXEXE]AGENS\$FEEDBACK.EXE

イメージ名:	"AGENS\$FEEDBACK"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-32"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:46.56	チェックサム:	3371A610

- [SYSEXEXE]ANALYZRMS.EXE

イメージ名:	"ANALYZRMS"	ビルド ID:	"0100070118"
ファイル ID:	"X-13"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-OCT-2013 13:48:08.57	チェックサム:	A574951

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

• [SYSEXE]AUDIT_SERVER.EXE

イメージ名:	"AUDIT_SERVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-13"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-AUG-2010 14:16:17.11	チェックサム:	F21A75BC

• [SYSEXE]AUTHORIZE.EXE

イメージ名:	"AUTHORIZE"	ビルド ID:	"0100000088"
ファイル ID:	"X-32"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	22-OCT-2012 11:29:04.25	チェックサム:	F0AE134D

• [SYSEXE]BACKUP.EXE

イメージ名:	"BACKUP"	ビルド ID:	"0100000198"
ファイル ID:	"V8.4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-JUN-2016 11:29:10.72	チェックサム:	8B354E95

• [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

イメージ名:	"BACKUPSHR"	ビルド ID:	"0100000198"
ファイル ID:	"V8.4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-JUN-2016 11:28:56.56	チェックサム:	8C6A9062

• [SYSHLP.UNSUPPORTED]CDDVD\$COMPARE.EXE

イメージ名:	"CDDVD\$COMPARE"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"CDDVD V1.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	28-NOV-2010 19:09:59.35	チェックサム:	1CCCCAC3

• [SYSHLP.UNSUPPORTED]CDDVD\$COPY.EXE

イメージ名:	"CDDVD\$COPY"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"CDDVD V1.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	28-NOV-2010 19:09:39.02	チェックサム:	7C0C5E6

• [SYSEXE]CDDVD\$CP.EXE

イメージ名:	"CDDVD\$CP"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"CDDVD V1.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	28-NOV-2010 19:10:22.25	チェックサム:	D101AA6C

• [SYSMMSG]CDDVD\$MESSG.EXE

イメージ名:	"CDDVD\$MESSG"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"CDDVD V1.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	28-NOV-2010 17:24:33.20	チェックサム:	33F0FBC8

• [SYSEXE]CDU.EXE

イメージ名:	"CDU"	ビルド ID:	"0100000002"
--------	-------	---------	--------------

ファイル ID:	"I01-11"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-AUG-2010 14:16:17.42	チェックサム:	397B73B2
• [SYSMMSG]CLIUTLMSG.EXE			
イメージ名:	"CLIUTLMSG"	ビルド ID:	"0100000208"
ファイル ID:	"X-3"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	25-APR-2017 18:10:14.51	チェックサム:	142BE352
• [SYSLIB]CLUE\$SDA.EXE			
イメージ名:	"CLUE\$SDA"	ビルド ID:	"0100000105"
ファイル ID:	"X-71"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-APR-2013 11:44:16.65	チェックサム:	FE673015
• [SYS\$LDR]CNX\$DEBUG.EXE			
イメージ名:	"CNX\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	8-AUG-2011 13:07:47.78	チェックサム:	7323B449
• [SYSEXEC]CONVERT.EXE			
イメージ名:	"CONVERT"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-12"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:35.15	チェックサム:	29501629
• [SYSLIB]CONVSHR.EXE			
イメージ名:	"CONVSHR"	ビルド ID:	"0100000125"
ファイル ID:	"X1-012"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	15-JAN-2014 12:34:24.82	チェックサム:	72C55201
• [SYSEXEC]COPY.EXE			
イメージ名:	"COPY"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X02-01"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:03.31	チェックサム:	46E9F9D
• [SYSLIB]DBG\$HA_KERNEL.EXE			
イメージ名:	"DBG\$HA_KERNEL"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:31.81	チェックサム:	F15DFC01
• [SYSLIB]DBG\$HA_MAIN.EXE			
イメージ名:	"DBG\$HA_MAIN"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:27.88	チェックサム:	26E710E6

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

• [SYSEXE]DBGHK\$HOST_KERNEL.EXE

イメージ名:	"DBGHK\$HOST_KERNEL"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"V8.4-000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:59:12.51	チェックサム:	E58D00ED

• [SYSEXE]DBGHK\$PRCDUMP_KERNEL.EXE

イメージ名:	"DBGHK\$PRCDUMP_KERNEL"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"V8.4-000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:59:15.06	チェックサム:	20F2A7EC

• [SYSEXE]DBGHK\$SYSDUMP_KERNEL.EXE

イメージ名:	"DBGHK\$SYSDUMP_KERNEL"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"V8.4-000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:59:16.92	チェックサム:	B549FCE7

• [SYSMSG]DBGTBKMSG.EXE

イメージ名:	"DBGTBKMSG"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:16.10	チェックサム:	18D626C7

• [SYSLIB]DCE\$LIB_SHR.EXE

イメージ名:	"DCE\$LIB_SHR"	ビルド ID:	""
ファイル ID:	"DCE V3.2-100509"	リンカー ID:	"Linker I02-17"
リンク日時:	10-MAY-2010 02:54:11.62	チェックサム:	1E7AB502

• [SYSEXE]DCL.EXE

イメージ名:	"DCL"	ビルド ID:	"0100000086"
ファイル ID:	"X-55"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-OCT-2012 12:39:40.87	チェックサム:	88EC702D

• [SYSLIB]DEBUG.EXE

イメージ名:	"DEBUG"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:07.10	チェックサム:	243C847E

• [SYSLIB]DEBUGSHR.EXE

イメージ名:	"DEBUGSHR"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:39.26	チェックサム:	F52B8527

• [SYSLIB]DEBUGSRVSHR.EXE

イメージ名:	"DEBUGSRVSHR"	ビルド ID:	"0100000004"
--------	---------------	---------	--------------

ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:01.54	チェックサム:	E8516CBD
• [SYSLIB]DEBUGISHR.EXE			
イメージ名:	"DEBUGISHR"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.4-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:19:16.02	チェックサム:	A088619A
• [SYSLIB]DEC\$BASRTL.EXE			
イメージ名:	"DEC\$BASRTL"	ビルド ID:	"0100000214"
ファイル ID:	"V01-037"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-JUL-2017 13:00:09.62	チェックサム:	FE1D08C8
• [SYSLIB]DEC\$COBRTL.EXE			
イメージ名:	"LIBCOB"	ビルド ID:	"0100000214"
ファイル ID:	"V2.9-785"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-JUL-2017 13:00:02.92	チェックサム:	A2E22F49
• [SYSLIB]DEC\$FORRTL.EXE			
イメージ名:	"DEC\$FORRTL"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"V01-07.004"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-FEB-2012 12:58:49.90	チェックサム:	AFAA15AA
• [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE			
イメージ名:	"DECC\$SHR"	ビルド ID:	"0100000215"
ファイル ID:	"V8.4-00"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-JUL-2017 14:01:39.57	チェックサム:	748663B2
• [SYSLIB]DECC\$SHRP.EXE			
イメージ名:	"DECC\$SHRP"	ビルド ID:	"0100000215"
ファイル ID:	"V8.4-00"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-JUL-2017 14:01:35.80	チェックサム:	AA6FDC82
• [SYSEXEC]DELETE.EXE			
イメージ名:	"DELETE"	ビルド ID:	"0100000171"
ファイル ID:	"X-05"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUL-2015 14:35:01.12	チェックサム:	AF6469D6
• [SYSEXEC]DIFF.EXE			
イメージ名:	"DIFF"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-12"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:49:40.22	チェックサム:	2D361DA1

ファイル ID:	"X-23"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	27-FEB-2014 17:06:12.25	チェックサム:	2E07C213
• [SYSS\$LDR]ERRORLOG.EXE			
イメージ名:	"ERRORLOG"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:03.30	チェックサム:	4696DD8F
• [SYSS\$LDR]EXCEPTION.EXE			
イメージ名:	"EXCEPTION"	ビルド ID:	"0100000117"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-SEP-2013 14:38:10.26	チェックサム:	73DA03CA
• [SYSS\$LDR]EXCEPTION_MON.EXE			
イメージ名:	"EXCEPTION_MON"	ビルド ID:	"0100000117"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-SEP-2013 14:38:14.43	チェックサム:	73DA03CA
• [SYSS\$LDR]EXEC_INIT.EXE			
イメージ名:	"EXEC_INIT"	ビルド ID:	"0100000217"
ファイル ID:	"X-217"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-AUG-2017 12:43:33.91	チェックサム:	F96B3944
• [SYSS\$LDR]F11BXQP.EXE			
イメージ名:	"F11BXQP"	ビルド ID:	"0100000205"
ファイル ID:	"XQP V84R CFR"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-FEB-2017 12:06:55.25	チェックサム:	F5ED40EE
• [SYSEXEXE]F11CACP.EXE			
イメージ名:	"F11CACP"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-13"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:16.63	チェックサム:	858832A3
• [SYSEXEXE]F11DACP.EXE			
イメージ名:	"F11DACP"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-13"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:17.63	チェックサム:	12EC70DC
• [SYSEXEXE]FAL.EXE			
イメージ名:	"FAL"	ビルド ID:	"0100000119"
ファイル ID:	"X-10"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	25-OCT-2013 18:28:10.62	チェックサム:	883D24AB

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

• [SYSLIB]FC\$SDA.EXE

イメージ名:	"FC\$SDA"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"X-42"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:50:51.03	チェックサム:	7E8D3293

• [SYSSLDR]FLT\$DEBUG.EXE

イメージ名:	"FLT\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:50.37	チェックサム:	5DD7CEA3

• [SYSLIB]FLT\$SDA.EXE

イメージ名:	"FLT\$SDA"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-8A1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:51.09	チェックサム:	63800810

• [SYSLIB]HBAAPITEST.EXE

イメージ名:	"HBAAPITEST"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:50:47.37	チェックサム:	72A8076F

• [SYSLIB]HBA_VMS.EXE

イメージ名:	"HBA_VMS"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:50:46.54	チェックサム:	70B70770

• [SYSLIB]I64_CLUE\$SDA.EXE

イメージ名:	"I64_CLUE\$SDA"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-69"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:54.95	チェックサム:	8972E72D

• [SYSEXE]I64_DBGHK\$HOST_KERNEL.EXE

イメージ名:	"I64_DBGHK\$HOST_KERNEL"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"V8.4-000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:59:13.42	チェックサム:	D4EC58D6

• [SYSLIB]ICC\$SDA.EXE

イメージ名:	"ICC\$SDA"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-2"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	20-OCT-2010 18:17:47.51	チェックサム:	945326A5

• [SYSSLDR]IMAGE_MANAGEMENT.EXE

イメージ名:	"IMAGE_MANAGEMENT"	ビルド ID:	"0100000002"
--------	--------------------	---------	--------------

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:12.68	チェックサム:	102AE8D0
• [SYSLIB]IMGDMP.EXE			
イメージ名:	"IMGDMP"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-72"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	8-AUG-2011 13:07:09.05	チェックサム:	C088596
• [SYSEXEXE]INDICTMENT_SERVER.EXE			
イメージ名:	"INDICTMENT_SERVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-AUG-2010 14:16:16.86	チェックサム:	3DA25BA
• [SYSLIB]INIT\$SHR.EXE			
イメージ名:	"INIT\$SHR"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:36:49.91	チェックサム:	CFA1FD22
• [SYSEXEXE]INIT.EXE			
イメージ名:	"INIT"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-24"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:34.11	チェックサム:	36E9D843
• [SYSEXEXE]INSTALL.EXE			
イメージ名:	"INSTALL"	ビルド ID:	"0100000218"
ファイル ID:	"X-34"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-AUG-2017 16:50:57.70	チェックサム:	FA953E8B
• [SYSLIB]IOGEN\$AVIO_CONFIG.EXE			
イメージ名:	"IOGEN\$AVIO_CONFIG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:57:20.35	チェックサム:	983985BC
• [SYSLIB]IOGEN\$CISS_CONFIG.EXE			
イメージ名:	"IOGEN\$CISS_CONFIG"	ビルド ID:	"0100000190"
ファイル ID:	"X-11"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAR-2016 16:35:23.72	チェックサム:	D85CC76B
• [SYSLIB]IOGEN\$FIBRE_CONFIG.EXE			
イメージ名:	"IOGEN\$FIBRE_CONFIG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-39"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	15-SEP-2010 15:49:45.45	チェックサム:	DDEB4425

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- [SYSLIB]IOGEN\$ISA_CONFIG.EXE

イメージ名:	"IOGEN\$ISA_CONFIG"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-21"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:07:19.51	チェックサム:	A82BC75
- [SYSLIB]IOGEN\$SCSI_CONFIG.EXE

イメージ名:	"IOGEN\$SCSI_CONFIG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-14"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:57:20.56	チェックサム:	58D28E83
- [SYSSLDR]IO_ROUTINES.EXE

イメージ名:	"IO_ROUTINES"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:05.12	チェックサム:	914F9DD9
- [SYSSLDR]IO_ROUTINES_MON.EXE

イメージ名:	"IO_ROUTINES_MON"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:17.30	チェックサム:	4F37930B
- [SYSEXEXE]IPB.EXE

イメージ名:	"IPB"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"X-4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:48:33.26	チェックサム:	E4F3C354
- [SYSEXEXE]IPB_NOXDELTA.EXE

イメージ名:	"IPB_NOXDELTA"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:42.13	チェックサム:	8E9E08DD
- [SYSEXEXE]JBC\$JOB_CONTROL.EXE

イメージ名:	"JBC\$JOB_CONTROL"	ビルド ID:	"0100000082"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-AUG-2012 13:49:47.73	チェックサム:	16861EF4
- [SYSLIB]LAN\$SDA.EXE

イメージ名:	"LAN\$SDA"	ビルド ID:	"0100000094"
ファイル ID:	"X-64"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-DEC-2012 10:06:48.61	チェックサム:	9EB6A973
- [SYSEXEXE]LANACP.EXE

イメージ名:	"LANACP"	ビルド ID:	"0100000003"
--------	----------	---------	--------------

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|-----------------|
| ファイル ID: | "X-29" | リンカー ID: | "Linker I02-37" |
| リンク日時: | 1-OCT-2010 16:33:09.46 | チェックサム: | 981E18DE |
- [SYSEXE]LANCP.EXE

イメージ名:	"LANCP"	ビルド ID:	"0100000136"
ファイル ID:	"X-93"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:18:09.27	チェックサム:	28194A1
 - [SYSLIB]LAT\$SHR.EXE

イメージ名:	"LAT\$SHR"	ビルド ID:	"0100000129"
ファイル ID:	"LAT\$SHR V2.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	24-MAR-2014 13:38:58.25	チェックサム:	36446126
 - [SYSLIB]LBRSHR.EXE

イメージ名:	"LBRSHR"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"I01-42"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	8-AUG-2011 13:03:54.62	チェックサム:	FCC80C2A
 - [SYSLIB]LCK\$SDA.EXE

イメージ名:	"LCK\$SDA"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-28"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:37.95	チェックサム:	E9B49F54
 - [SYSLIB]LDAP\$SHR.EXE

イメージ名:	"LDAP\$SHR"	ビルド ID:	"0100000150"
ファイル ID:	"LDAP V2.0-05000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-NOV-2014 13:40:24.08	チェックサム:	EFBC208F
 - [SYSLIB]LDAPACME\$LDAP-STD_ACMESH.R.EXE

イメージ名:	"LDAPACME\$LDAP-STD_ACMESH.R"	ビルド ID:	"0100700123"
ファイル ID:	"LDAP-STD V01.05"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-DEC-2013 19:32:25.94	チェックサム:	1CF58060
 - [SYSEXE]LDAP_LOAD_LOCALUSER_DATABASE.EXE

イメージ名:	"LDAP_LOAD_LOCALUSER_DATABASE"	ビルド ID:	"0100700123"
ファイル ID:	"LDAPACME V01.01"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-DEC-2013 19:32:37.52	チェックサム:	EEB6188B
 - [SYSLIB]LIBOTS.EXE

イメージ名:	"LIBOTS"	ビルド ID:	"0100000156"
ファイル ID:	"V1.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-FEB-2015 14:36:23.97	チェックサム:	287E6FDE

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

• [SYSLIB]LIBRTL.EXE

イメージ名:	"LIBRTL"	ビルド ID:	"0100000100"
ファイル ID:	"X01-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	22-FEB-2013 13:10:51.88	チェックサム:	992B8504

• [SYSEXEXE]LMF.EXE

イメージ名:	"LMF"	ビルド ID:	"0100000103"
ファイル ID:	"X-26"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-MAR-2013 16:19:01.48	チェックサム:	E200B7CD

• [SYSSLDR]LNM\$DEBUG.EXE

イメージ名:	"LNM\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:01.15	チェックサム:	5978A650

• [SYSLIB]LNM\$SDA.EXE

イメージ名:	"LNM\$SDA"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-14"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	23-MAY-2011 12:08:52.91	チェックサム:	677D3AF6

• [SYSSLDR]LOCKING.EXE

イメージ名:	"LOCKING"	ビルド ID:	"0100000212"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JUL-2017 12:46:53.99	チェックサム:	15703AC8

• [SYSSLDR]LOGICAL_NAMES.EXE

イメージ名:	"LOGICAL_NAMES"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:51.05	チェックサム:	45A4DBF

• [SYSEXEXE]LOGINOUT.EXE

イメージ名:	"LOGINOUT"	ビルド ID:	"0100000072"
ファイル ID:	"X-54"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-APR-2012 11:53:32.77	チェックサム:	78A5B7E

• [SYSEXEXE]MACRO.EXE

イメージ名:	"MACRO"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"50-120-5-50F9M"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:12.29	チェックサム:	85290640

• [SYSEXEXE]MAIL.EXE

イメージ名:	"MAIL"	ビルド ID:	"0100000004"
--------	--------	---------	--------------

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|-----------------|
| ファイル ID: | "V1.06" | リンカー ID: | "Linker I02-37" |
| リンク日時: | 19-JUL-2011 16:49:53.38 | チェックサム: | 7A9C36D0 |
- [SYSSLDR]MESSAGE_ROUTINES.EXE

イメージ名:	"MESSAGE_ROUTINES"	ビルド ID:	"0100000096"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JAN-2013 11:47:00.72	チェックサム:	2E2247D9
 - [SYSEXEXE]MIME.EXE

イメージ名:	"MIME"	ビルド ID:	"0100000074"
ファイル ID:	"V1.93"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAY-2012 13:19:40.01	チェックサム:	663A67EE
 - [SYSEXEXE]MONITOR.EXE

イメージ名:	"MONITOR"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-26"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:23.93	チェックサム:	AD6E966A
 - [SYSLIB]MOUNTSHR.EXE

イメージ名:	"MOUNTSHR"	ビルド ID:	"0100000199"
ファイル ID:	"X-9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-AUG-2016 02:10:08.16	チェックサム:	D9C0CB95
 - [SYSEXEXE]MSA\$UTIL.EXE

イメージ名:	"MSA\$UTIL"	ビルド ID:	"0100000190"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAR-2016 16:36:59.07	チェックサム:	482650
 - [SYSSLDR]MSCP.EXE

イメージ名:	"MSCP"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	5-JAN-2012 16:13:28.11	チェックサム:	6E66B3B1
 - [SYSEXEXE]MTAAACP.EXE

イメージ名:	"MTAAACP"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-12"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:49:58.55	チェックサム:	97B1EE3E
 - [SYSSLDR]MULTIPATH.EXE

イメージ名:	"MULTIPATH"	ビルド ID:	"0100000217"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-AUG-2017 12:44:05.01	チェックサム:	27777E04

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- [SYSSLDR]MULTIPATH_MON.EXE

イメージ名:	"MULTIPATH_MON"	ビルド ID:	"0100000217"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-AUG-2017 12:44:07.11	チェックサム:	DFAEBEB

- [SYSSLDR]NET\$CSMACD.EXE

イメージ名:	"CSMACD - NETWORK MANAGEMENT"	ビルド ID:	"0100000136"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:18:03.33	チェックサム:	CC2C9EF8

- [SYSEXEC]OPCOM.EXE

イメージ名:	"OPCOM"	ビルド ID:	"0100000080"
ファイル ID:	"X-16"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	11-JUL-2012 10:04:07.81	チェックサム:	F3A17E70

- [SYSLIB]PE\$SDA.EXE

イメージ名:	"PE\$SDA"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-23"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-NOV-2010 17:41:40.77	チェックサム:	AF74A4AB

- [SYSLIB]PKM\$SDA.EXE

イメージ名:	"PKM\$SDA"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-29"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-JUL-2010 19:03:08.50	チェックサム:	7C814B0B

- [SYSLIB]PKR\$SDA.EXE

イメージ名:	"PKR\$SDA"	ビルド ID:	"0100000090"
ファイル ID:	"X-14"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-NOV-2012 18:02:56.14	チェックサム:	E945AF58

- [SYSSLDR]PRF\$DEBUG.EXE

イメージ名:	"PRF\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:14.50	チェックサム:	B95D9D6F

- [SYSLIB]PRF\$SDA.EXE

イメージ名:	"PRF\$SDA"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-27"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:12:03.64	チェックサム:	5A37FC1

• [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE

イメージ名:	"PROCESS_MANAGEMENT"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:32.27	チェックサム:	91F99485

• [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE

イメージ名:	"PROCESS_MANAGEMENT_MON"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:36.73	チェックサム:	72AD78F4

• [SYSLIB]PTHREAD\$DBGSHR.EXE

イメージ名:	"PTHREAD\$DBGSHR"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V3.22-095"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-JUL-2011 15:16:48.07	チェックサム:	7F892FAD

• [SYSLIB]PTHREAD\$RTL.EXE

イメージ名:	"PTHREAD\$RTL"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V3.22-095"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-JUL-2011 15:16:47.68	チェックサム:	FCE15062

• [SYSEXEC]QMAN\$QUEUE_MANAGER.EXE

イメージ名:	"QMAN\$QUEUE_MANAGER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-3"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-NOV-2010 17:41:09.01	チェックサム:	DDA8CCED

• [SYSEXEC]QUEMAN.EXE

イメージ名:	"QUEMAN"	ビルド ID:	"0100000102"
ファイル ID:	"X02-01"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-MAR-2013 11:33:18.74	チェックサム:	39279152

• [SYSEXEC]RECLAIM.EXE

イメージ名:	"RECLAIM"	ビルド ID:	"0100000005"
ファイル ID:	"X-6"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-FEB-2012 11:31:36.50	チェックサム:	19AFE135

• [SYSEXEC]RECOVER.EXE

イメージ名:	"RECOVER"	ビルド ID:	"0100000096"
ファイル ID:	"X01-03"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JAN-2013 11:46:50.50	チェックサム:	2EF02AAC

• [SYSSLDR]RMS.EXE

イメージ名:	"RMS"	ビルド ID:	"0100000207"
--------	-------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-MAR-2017 18:45:22.46	チェックサム:	99432A1D
• [SYSEXE]RMSREC\$SERVER.EXE			
イメージ名:	"RMSREC\$SERVER"	ビルド ID:	"0100000096"
ファイル ID:	"X-14"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JAN-2013 11:46:53.10	チェックサム:	50A4A493
• [SYSEXE]SCACP.EXE			
イメージ名:	"SCACP"	ビルド ID:	"0100000080"
ファイル ID:	"X-38"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	11-JUL-2012 10:03:57.49	チェックサム:	CB492413
• [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE			
イメージ名:	"SDA\$SHARE"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-2"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:47.27	チェックサム:	74F9783A
• [SYSLIB]SDARMS\$SHARE.EXE			
イメージ名:	"SDARMS\$SHARE"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-7"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:23.59	チェックサム:	386DE222
• [SYSEXE]SEARCH.EXE			
イメージ名:	"SEARCH"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X02-09"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	20-OCT-2010 18:17:55.08	チェックサム:	B6C7EED9
• [SYSLIB]SECURESHR.EXE			
イメージ名:	"SECURESHR"	ビルド ID:	"0100000081"
ファイル ID:	"X-13"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	27-JUL-2012 12:31:09.37	チェックサム:	647BB1DE
• [SYSLIB]SECURESHRP.EXE			
イメージ名:	"SECURESHRP"	ビルド ID:	"0100000081"
ファイル ID:	"X-9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	27-JUL-2012 12:31:08.05	チェックサム:	AD77852C
• [SYSSLDR]SECURITY.EXE			
イメージ名:	"SECURITY"	ビルド ID:	"0100000167"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-MAY-2015 15:07:54.55	チェックサム:	BD5291B5

• [SYSSLDR]SECURITY_MON.EXE

イメージ名:	"SECURITY_MON"	ビルド ID:	"0100000167"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-MAY-2015 15:08:18.91	チェックサム:	88775F95

• [SYSEXEXE]SECURITY_SERVER.EXE

イメージ名:	"SECURITY_SERVER"	ビルド ID:	"0100000127"
ファイル ID:	" DEC Ada V3.5"	リンカー ID:	"Linker I02-38"
リンク日時:	5-FEB-2014 18:44:35.82	チェックサム:	3A685627

• [SYSEXEXE]SET.EXE

イメージ名:	"SET"	ビルド ID:	"0100000201"
ファイル ID:	"X02-00"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	31-AUG-2016 16:47:12.32	チェックサム:	C4FEF5C3

• [SYSEXEXE]SETP0.EXE

イメージ名:	"SETP0"	ビルド ID:	"0100000072"
ファイル ID:	"X-3K2"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-APR-2012 11:54:30.78	チェックサム:	215EB1E7

• [SYSEXEXE]SETSHOSERVER.EXE

イメージ名:	"SETSHOSERVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-2"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:35:25.04	チェックサム:	FCB8703F

• [SYSEXEXE]SETSHOSHADOW.EXE

イメージ名:	"SETSHOSHADOW"	ビルド ID:	"0100000163"
ファイル ID:	"X-02"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	27-MAR-2015 13:33:12.76	チェックサム:	193DDB00

• [SYSEXEXE]SHADOW_SERVER.EXE

イメージ名:	"SHADOW_SERVER"	ビルド ID:	"0100000163"
ファイル ID:	"X-29"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	27-MAR-2015 13:32:36.94	チェックサム:	9A25FD67

• [SYSSLDR]SHELL16K.EXE

イメージ名:	"SHELL16K"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:10.39	チェックサム:	B1DC91B0

• [SYSSLDR]SHELL32K.EXE

イメージ名:	"SHELL32K"	ビルド ID:	"0100000001"
--------	------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:13.44	チェックサム:	73F34B95
• [SYSLDR]SHELL64K.EXE			
イメージ名:	"SHELL64K"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:15.75	チェックサム:	E62635F8
• [SYSLDR]SHELL8K.EXE			
イメージ名:	"SHELL8K"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:05.90	チェックサム:	5C0A23FF
• [SYSEXEC]SHOW.EXE			
イメージ名:	"SHOW"	ビルド ID:	"0100000201"
ファイル ID:	"X-8"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	31-AUG-2016 16:47:11.79	チェックサム:	7B9F242D
• [SYSEXEC]SHWCLSTR.EXE			
イメージ名:	"SHWCLSTR"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-27"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:59:12.78	チェックサム:	3A7043B9
• [SYSLIB]SMBSRVSHR.EXE			
イメージ名:	"SMBSRVSHR"	ビルド ID:	"0100000102"
ファイル ID:	"X-6"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-MAR-2013 11:31:21.86	チェックサム:	45E34BD3
• [SYSLIB]SMGSHR.EXE			
イメージ名:	"SMGSHR"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"SMG\$ X1.0-001"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:56:20.10	チェックサム:	2DD21893
• [SYSLIB]SMISOBJSHR.EXE			
イメージ名:	"SMI\$OBJSHR"	ビルド ID:	"0100000190"
ファイル ID:	"X40-A9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAR-2016 16:36:19.98	チェックサム:	22C6A00C
• [SYSLIB]SMI\$SHR.EXE			
イメージ名:	"SMI\$SHR"	ビルド ID:	"0100000121"
ファイル ID:	"X01-04"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	22-NOV-2013 13:45:32.71	チェックサム:	517CA5CD

• [SYSEXE]SMISERVER.EXE

イメージ名:	"SMISERVER"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X01-15"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:23.89	チェックサム:	644E4509

• [SYSEXE]SMPUTIL.EXE

イメージ名:	"SMPUTIL"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-30"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:10:06.48	チェックサム:	4ECACE4

• [SYSEXE]SORTMERGE.EXE

イメージ名:	"SORTMERGE"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V08-014"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:22.07	チェックサム:	25CCC85E

• [SYSLIB]SORTSHR.EXE

イメージ名:	"SORTSHR"	ビルド ID:	"0100000077"
ファイル ID:	"V08-013"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	18-JUN-2012 13:58:52.15	チェックサム:	2260F754

• [SYSLIB]SPL\$SDA.EXE

イメージ名:	"SPL\$SDA"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-43"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:11:24.22	チェックサム:	1E5B7D4B

• [SYSSLDR]SWIS\$DEBUG.EXE

イメージ名:	"SWIS\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000141"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-SEP-2014 16:55:31.00	チェックサム:	6B25B3D6

• [SYSLIB]SWIS\$SDA.EXE

イメージ名:	"SWIS\$SDA"	ビルド ID:	"0100000141"
ファイル ID:	"X-2A1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-SEP-2014 16:55:33.15	チェックサム:	81C15147

• [SYSSLDR]SYS\$BASE_IMAGE.EXE

イメージ名:	"SYS\$BASE_IMAGE"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"IA64 XCFR-J2I"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:36:23.53	チェックサム:	79B46854

• [SYSSLDR]SYS\$CLUSTER.EXE

イメージ名:	"SYS\$CLUSTER"	ビルド ID:	"0100000212"
--------	----------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JUL-2017 12:46:42.45	チェックサム:	FC2F9309
• [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$CLUSTER_MON"	ビルド ID:	"0100000212"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-JUL-2017 12:46:47.10	チェックサム:	FDA6D165
• [SYS\$LDR]SYS\$CMDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$CMDRIVER"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:55.59	チェックサム:	C96897F
• [SYS\$LDR]SYS\$CTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$CTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-JUL-2011 15:18:12.31	チェックサム:	53813CDB
• [SYS\$LDR]SYS\$DADDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$DADDRIVER"	ビルド ID:	"0100000169"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-JUN-2015 15:38:37.57	チェックサム:	72EF0DAC
• [SYSEXE]SYS\$DAYLIGHT_SAVING.EXE			
イメージ名:	"SYS\$DAYLIGHT_SAVING"	ビルド ID:	"0100000145"
ファイル ID:	"TDF V1.0-0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	24-OCT-2014 15:57:37.11	チェックサム:	3E86631B
• [SYS\$LDR]SYS\$DKBTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$DKBTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000072"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-APR-2012 13:59:41.29	チェックサム:	7344110D
• [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$DKDRIVER"	ビルド ID:	"0100000214"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	21-JUL-2017 13:01:38.16	チェックサム:	AC449EBE
• [SYS\$LDR]SYS\$DNDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$DNDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:36.29	チェックサム:	644C8CD6

• [SYSS\$LDR]SYSS\$DQDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$DQDRIVER"	ビルド ID:	"0100000069"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-MAR-2012 18:18:57.12	チェックサム:	F8BE3F77

• [SYSS\$LDR]SYSS\$DZCDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$DZCDRIVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:46.35	チェックサム:	ECE337BB

• [SYSS\$LDR]SYS\$EHCIDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$EHCIDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	20-OCT-2010 18:18:08.54	チェックサム:	BB806079

• [SYSS\$LDR]SYS\$EI1000.EXE

イメージ名:	"SYS\$EI1000DRIVER"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:17.28	チェックサム:	7E4C0573

• [SYSS\$LDR]SYS\$EI1000_MON.EXE

イメージ名:	"SYS\$EI1000DRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:18.51	チェックサム:	C4576A33

• [SYSS\$LDR]SYS\$EIDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$EIDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-SEP-2010 16:28:07.44	チェックサム:	3EE9231A

• [SYSS\$LDR]SYS\$EIDRIVER_MON.EXE

イメージ名:	"SYS\$EIDRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-SEP-2010 16:28:07.87	チェックサム:	86A65966

• [SYSS\$LDR]SYS\$EIGBTDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$EIGBTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	15-SEP-2010 15:50:51.03	チェックサム:	B66A8957

• [SYSS\$LDR]SYS\$ER57711.EXE

イメージ名:	"SYS\$EW57711DRIVER"	ビルド ID:	"0100000136"
--------	----------------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:19:12.99	チェックサム:	7C4D33EC
• [SYSS\$LDR]SYSS\$ER57711_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EW57711DRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000136"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:19:19.34	チェックサム:	7F83B8E3
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EW5700.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EW5700DRIVER"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:14.24	チェックサム:	AA0501E5
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EW5700_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EW5700DRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:15.81	チェックサム:	86969DFC
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EW57711.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EW57711DRIVER"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:25.46	チェックサム:	EB59A528
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EW57711_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EW57711DRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000192"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-MAY-2016 12:55:26.17	チェックサム:	CC507085
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EWXFRAME.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EWXFRAMEDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-OCT-2010 16:33:17.81	チェックサム:	23C180CD
• [SYSS\$LDR]SYSS\$EWXFRAME_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$EWXFRAMEDRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-OCT-2010 16:33:18.20	チェックサム:	B64AAFCB
• [SYSS\$LDR]SYSS\$FGEDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$FGEDRIVER"	ビルド ID:	"0100000190"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAR-2016 16:36:53.33	チェックサム:	6555E35D

• [SYS\$LDR]SYSS\$GHDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$GHDRIVER"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"DW V8.4-100903"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:59:16.70	チェックサム:	9D71158B

• [SYS\$LDR]SYSS\$GLDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$GLDRIVERDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	20-OCT-2010 18:18:47.42	チェックサム:	E58D5824

• [SYS\$LDR]SYSS\$GLDRIVER_MON.EXE

イメージ名:	"SYS\$GLDRIVERDRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	20-OCT-2010 18:18:50.51	チェックサム:	DC02EB42

• [SYS\$LDR]SYSS\$GSPBTDRIIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$GSPBTDRIIVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:27.30	チェックサム:	8D292EB3

• [SYS\$LDR]SYSS\$GSPDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$GSPDRIVER"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:50:32.81	チェックサム:	B655810B

• [SYS\$LDR]SYSS\$HIDDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$HIDDRIVER"	ビルド ID:	"0100000089"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-OCT-2012 17:14:28.55	チェックサム:	16BEF158

• [SYS\$LDR]SYSS\$HUBDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$HUBDRIVER"	ビルド ID:	"0100000089"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-OCT-2012 17:14:30.33	チェックサム:	86E3F8C1

• [SYS\$LDR]SYSS\$HWP0001.EXE

イメージ名:	"SYS\$HWP0001"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:10:27.37	チェックサム:	3083FF7

• [SYS\$LDR]SYSS\$HWP0004.EXE

イメージ名:	"SYS\$HWP0004"	ビルド ID:	"0100000000"
--------	----------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:10:30.81	チェックサム:	BEFFC254
• [SYSS\$LDR]SYSS\$IKUDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$IKUDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"DW V8.4-101104"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-NOV-2010 18:16:07.43	チェックサム:	3D49C68C
• [SYSS\$LDR]SYSS\$IKXDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$IKXDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"DW V8.4-101104"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-NOV-2010 18:15:47.02	チェックサム:	8C69C757
• [SYSS\$LDR]SYSS\$IMUDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$IMUDRIVER"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"DW V8.4-101104"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-NOV-2010 18:16:13.84	チェックサム:	9FF28778
• [SYSS\$LDR]SYSS\$IPC_SERVICES.EXE			
イメージ名:	"SYS\$IPC_SERVICES"	ビルド ID:	"0100000115"
ファイル ID:	"V1.3-X03E-XCFR"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2013 15:22:32.40	チェックサム:	FFAB881E
• [SYSS\$LDR]SYSS\$KBDDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$KBDDRIVER"	ビルド ID:	"0100000089"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-OCT-2012 17:14:33.40	チェックサム:	5F935882
• [SYSS\$LDR]SYSS\$LAN.EXE			
イメージ名:	"SYS\$LAN"	ビルド ID:	"0100000136"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:19:37.45	チェックサム:	5D4C63C6
• [SYSS\$LDR]SYSS\$LAN_CSMACD.EXE			
イメージ名:	"SYS\$LAN_CSMACD"	ビルド ID:	"0100000136"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	10-JUL-2014 17:19:39.89	チェックサム:	19C23370
• [SYSS\$LDR]SYSS\$LASTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$LASTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-JUL-2010 19:02:07.00	チェックサム:	EE4DD88B

- [SYSS\$LDR]SYSS\$LLDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$LLDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:50:08.84	チェックサム:	2F9ACFD8
- [SYSS\$LDR]SYSS\$MDDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$MDDRIVER"	ビルド ID:	"0100000074"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAY-2012 13:19:43.36	チェックサム:	1319C9AB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$MKDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$MKDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:50:07.12	チェックサム:	178ABECA
- [SYSS\$LDR]SYSS\$OHCIDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$OHCIDRIVER"	ビルド ID:	"0100000217"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-AUG-2017 12:43:59.72	チェックサム:	4AE3F6FF
- [SYSS\$LDR]SYSS\$PCIE_SUPPORT.EXE

イメージ名:	"SYS\$PCIE_SUPPORT"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:10:53.70	チェックサム:	BFFB6434
- [SYSS\$LDR]SYSS\$PCI_SUPPORT.EXE

イメージ名:	"SYS\$PCI_SUPPORT"	ビルド ID:	"0100000000"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	14-MAY-2010 23:10:20.78	チェックサム:	DF096D31
- [SYSS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$PEDRIVER"	ビルド ID:	"0100000200"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-AUG-2016 15:27:24.90	チェックサム:	5395BD7F
- [SYSS\$LDR]SYSS\$PEDRIVER_MON.EXE

イメージ名:	"SYS\$PEDRIVER_MON"	ビルド ID:	"0100000200"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	26-AUG-2016 15:27:28.96	チェックサム:	697EF3FE
- [SYSS\$LDR]SYSS\$PGADRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$PGADRIVER"	ビルド ID:	"0100000190"
--------	------------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	4-MAR-2016 16:36:49.71	チェックサム:	589BF3A6
• [SYS\$LDR]SYS\$PGQBTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PGQBTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:49:48.71	チェックサム:	A295000C
• [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PGQDRIVER"	ビルド ID:	"0100000202"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-DEC-2016 13:38:14.19	チェックサム:	BAFE66DE
• [SYS\$LDR]SYS\$PKDDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKDDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	9-SEP-2011 13:36:15.09	チェックサム:	B514E52C
• [SYS\$LDR]SYS\$PKMBTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKMBTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:48:55.97	チェックサム:	87CBAC44
• [SYS\$LDR]SYS\$PKMDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKMDRIVER"	ビルド ID:	"0100000154"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	16-JAN-2015 13:49:26.95	チェックサム:	904E4821
• [SYS\$LDR]SYS\$PKRBTDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKRBTDRIVER"	ビルド ID:	"0100000073"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-APR-2012 20:44:43.99	チェックサム:	B05474E1
• [SYS\$LDR]SYS\$PKRDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKRDRIVER"	ビルド ID:	"0100000090"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-NOV-2012 18:02:38.48	チェックサム:	E322DA7
• [SYS\$LDR]SYS\$PKWDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$PKWDRIVER"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	15-SEP-2010 15:51:10.63	チェックサム:	D54F31DE

• [SYS\$LDR]SYS\$PLATFORM_SUPPORT.EXE

イメージ名:	"SYS\$PLATFORM_SUPPORT"	ビルド ID:	"0100000115"
ファイル ID:	"X-35"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2013 15:22:31.30	チェックサム:	641EA930

• [SYSEXE]SYS\$READ_TIME_ZONE_RULE.EXE

イメージ名:	"SYS\$READ_TIME_ZONE_RULE"	ビルド ID:	"0100000145"
ファイル ID:	"X-7"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	24-OCT-2014 15:57:41.25	チェックサム:	1F71AED4

• [SYS\$LIB]SYS\$SETBOOTSHR.EXE

イメージ名:	"SYS\$SETBOOTSHR"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"SB V6.0-1"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:57:19.00	チェックサム:	53D38BCD

• [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$SHDRIVER"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:47.94	チェックサム:	C3B7B048

• [SYS\$LDR]SYS\$SRDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$SRDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-JUL-2011 15:18:12.96	チェックサム:	51BE4C5

• [SYS\$LDR]SYS\$TRANSACTION_SERVICES.EXE

イメージ名:	"SYS\$TRANSACTION_SERVICES"	ビルド ID:	"0100000114"
ファイル ID:	"V2.1-X035-XCFR"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-AUG-2013 12:29:33.65	チェックサム:	877D55D7

• [SYS\$LDR]SYS\$UGDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$UGDRIVER"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	23-MAY-2011 12:09:08.68	チェックサム:	A71A64C6

• [SYS\$LDR]SYS\$UHCIDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$UHCIDRIVER"	ビルド ID:	"0100000089"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-OCT-2012 17:14:38.21	チェックサム:	70AD4BB8

• [SYS\$LDR]SYS\$USBDRIVER.EXE

イメージ名:	"SYS\$USBDRIVER"	ビルド ID:	"0100000089"
--------	------------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-OCT-2012 17:14:31.87	チェックサム:	AAD4A2E2
• [SYS\$LDR]SYS\$UTC_SERVICES.EXE			
イメージ名:	"SYS\$UTC_SERVICES"	ビルド ID:	"0100000126"
ファイル ID:	"DTSS T0.0-000"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	24-JAN-2014 10:33:28.01	チェックサム:	1CD4B7DC
• [SYS\$LDR]SYS\$VLANDRIVER.EXE			
イメージ名:	"SYS\$VLANDRIVER"	ビルド ID:	"0100000094"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	7-DEC-2012 10:06:28.03	チェックサム:	A718E076
• [SYS\$LDR]SYS\$VM.EXE			
イメージ名:	"SYS\$VM"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:06.15	チェックサム:	1CF713A9
• [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE.EXE			
イメージ名:	"SYS\$XFCACHE"	ビルド ID:	"0100000130"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	5-MAY-2014 14:14:11.69	チェックサム:	6D151B5D
• [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE_MON.EXE			
イメージ名:	"SYS\$XFCACHE_MON"	ビルド ID:	"0100000130"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	5-MAY-2014 14:14:22.70	チェックサム:	E0CB74B5
• [SYSEXEC]SYSBOOT.EXE			
イメージ名:	"SYSBOOT"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-154"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:44.81	チェックサム:	46B4FEF3
• [SYSEXEC]SYSGEN.EXE			
イメージ名:	"SYSGEN"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:45.45	チェックサム:	3E8C6A52
• [SYS\$LDR]SYSGETSYI.EXE			
イメージ名:	"SYSGETSYI"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:29.79	チェックサム:	73E9C6B1

- [SYSEXE]SYSINIT.EXE

イメージ名:	"SYSINIT"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-128"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:45.29	チェックサム:	CCDA1B50

- [SYSSLDR]SYSSLDR_DYN.EXE

イメージ名:	"SYSSLDR_DYN"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:47:31.51	チェックサム:	7DCF2B47

- [SYSEXE]SYSMAN.EXE

イメージ名:	"SYSMAN"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X01-22"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:22.69	チェックサム:	A154FEDC

- [SYSMMSG]SYSMGTMSG.EXE

イメージ名:	"SYSMGTMSG"	ビルド ID:	"0100000172"
ファイル ID:	"X-4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	17-JUL-2015 14:06:02.88	チェックサム:	66DAEEA9

- [SYSMMSG]SYSMMSG.EXE

イメージ名:	"SYSMMSG"	ビルド ID:	"0100000201"
ファイル ID:	"X-9"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	31-AUG-2016 16:45:47.74	チェックサム:	945E9A66

- [SYSSLDR]SYSTEM_DEBUG.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_DEBUG"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:51.90	チェックサム:	2CB6F89A

- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_PRIMITIVES"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:26.61	チェックサム:	3772EF36

- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_PRIMITIVES_MIN"	ビルド ID:	"0100000197"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	13-JUN-2016 17:39:32.91	チェックサム:	441FAA1D

- [SYSSLDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_SYNCHRONIZATION"	ビルド ID:	"0100000001"
--------	--------------------------	---------	--------------

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|-----------------|
| ファイル ID: | "X-5" | リンカー ID: | "Linker I02-37" |
| リンク日時: | 3-SEP-2010 12:46:52.40 | チェックサム: | 161C2D6A |
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:50.40	チェックサム:	D14A8BAA
 - [SYSS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI.EXE

イメージ名:	"SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI"	ビルド ID:	"0100000001"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-SEP-2010 12:46:53.59	チェックサム:	D6B3BD38
 - [SYSEXE]TDF\$SET_TIMEZONE.EXE

イメージ名:	"TDF\$SET_TIMEZONE"	ビルド ID:	"0100000145"
ファイル ID:	"TDF V1.0-0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	24-OCT-2014 15:57:45.59	チェックサム:	80AF45CC
 - [SYSS\$LDR]TR\$DEBUG.EXE

イメージ名:	"TR\$DEBUG"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-5"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	11-OCT-2010 15:18:28.03	チェックサム:	52C5C475
 - [SYSLIB]TR\$SDA.EXE

イメージ名:	"TR\$SDA"	ビルド ID:	"0100000003"
ファイル ID:	"X-18"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	11-OCT-2010 15:18:28.48	チェックサム:	581D8D55
 - [SYSLIB]TRACE.EXE

イメージ名:	"TRACE"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"V8.3-003"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-MAR-2011 12:16:03.43	チェックサム:	C71D9CD2
 - [SYSEXE]TYPE.EXE

イメージ名:	"TYPE"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-28"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-JUL-2011 16:50:54.13	チェックサム:	33BD59CC
 - [SYSTEST]UETINIT00.EXE

イメージ名:	"UETINIT00"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-48"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:24.84	チェックサム:	87C4672D

- [SYSLIB]USB\$SDA.EXE

イメージ名:	"USB\$SDA"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-34"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	1-JUL-2011 15:18:27.10	チェックサム:	BDAC4346

- [SYSEXE]USB\$UCM_SERVER.EXE

イメージ名:	"USB\$UCM_SERVER"	ビルド ID:	"0100000189"
ファイル ID:	"X-28"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	19-FEB-2016 14:12:17.22	チェックサム:	E2A6B2BB

- [SYSEXE]VERIFY.EXE

イメージ名:	"VERIFY"	ビルド ID:	"0100000135"
ファイル ID:	"X-28"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	2-JUL-2014 14:05:27.75	チェックサム:	55E12EBE

- [SYSEXE]VMOUNT.EXE

イメージ名:	"VMOUNT"	ビルド ID:	"0100000199"
ファイル ID:	"X-12"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	6-AUG-2016 03:49:52.76	チェックサム:	652E1A33

- [SYSLIB]VMS\$FORMAT_AUDIT_SYSTEM.EXE

イメージ名:	"VMS\$FORMAT_AUDIT_SYSTEM"	ビルド ID:	"0100000004"
ファイル ID:	"X-20"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	3-JUN-2011 13:34:08.44	チェックサム:	2F17FA11

- [SYSLIB]VMS\$VMS_ACMESH.R.EXE

イメージ名:	"VMS\$VMS_ACMESH.R"	ビルド ID:	"0100000090"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-38"
リンク日時:	29-OCT-2012 14:37:17.25	チェックサム:	2BDD6483

- [SYSEXE]VMSHELP.EXE

イメージ名:	"VMSHELP"	ビルド ID:	"0100000002"
ファイル ID:	"X-4"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	12-AUG-2010 14:58:20.35	チェックサム:	E616A288

- [SYSLIB]XFC\$SDA.EXE

イメージ名:	"XFC\$SDA"	ビルド ID:	"0100000110"
ファイル ID:	"V1.0"	リンカー ID:	"Linker I02-37"
リンク日時:	29-MAY-2013 11:28:20.00	チェックサム:	48DB616D

- [SYSUPD]ACCOUNTIN.HLP

- [SYSHLP]ACMELDAP_STD_CONFIG_INSTALL.PDF

- [SYSHLP]ACMELDAP_STD_CONFIG_INSTALL.TXT

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- [SYSUPD]ACMELOGIN_PREINSTAL_UPGRADE.COM
- [SYSHLP]ACME_DEV_README.TXT
- [SYSUPD]ANALYZE.CLD
- [SYSUPD]ANALYZE.HLP
- [SYSUPD]AUTOGEN.COM
- [SYSUPD]AUTOGEN_LM.COM
- [SYSUPD]BACKUP.CLD
- [SYSUPD]BACKUP.HLP
- [SYSLIB]BASIC\$STARLET.TLB
- [SYSMGR]BOOT_OPTIONS.COM
- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG.COM
- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG_LAN.COM
- [SYS\$LDR]CNX\$DEBUG.STB
- [SYSUPD]COPY.CLD
- [SYSUPD]CRTL.HLP
- [SYSLIB]CXXL\$ANSI_DEF.TLB
- [SYSHLP]DBG\$HELP.HLB
- [SYSUPD]DCLDICT.HLP
- [SYSLIB]DECC\$RTLDEF.TLB (updated by DECC\$RTLDEF.FOR_RELEASE)
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT\$EXAMPLES.TXT
- [SYSUPD]ENCRYPT.CLD
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_3DES.C
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.ADA
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.BAS
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.FOR
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.H
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.MAR
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.PAS
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.PLI
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_DEF.R32
- [SYS\$LDR]ERRORLOG.STB
- [SYS\$LDR]EXCEPTION.STB
- [SYS\$LDR]EXCEPTION_MON.STB

- [SYSSLDR]EXEC_INIT.STB
- [SYSSLDR]F11BXQP.STB
- [SYSSLDR]FLT\$DEBUG.STB
- [SYSEXEXE]FTP.EFI
- [SYSEXEXE]I64VMS\$PCSI_INSTALL.COM
- [SYSEXEXE]I64VMS\$PCSI_INSTALL_MIN.COM
- [SYSEXEXE]IFCONFIG.EFI
- [SYSSLDR]IMAGE_MANAGEMENT.STB
- [SYSUPD]INIT.CLD
- [SYSEXEXE]INS_STARTUP.COM
- [SYSSLDR]IO_ROUTINES.STB
- [SYSSLDR]IO_ROUTINES_MON.STB
- [SYSHLP]LANCP\$HELP.HLB
- [SYSS\$STARTUP]LDAPACME\$CONFIG-STD.INI_TEMPLATE
- [SYSHLP.EXAMPLES]LDAP_EXAMPLE.C
- [SYSEXEXE]LDAP_LOCALUSER_DATABASE.TXT_TEMPLATE
- [SYSLIB]LIB.L32
- [SYSLIB]LIB.L64
- [SYSLIB]LIB.MLB
- [SYSLIB]LIB.R64
- [SYSLIB]LIB.REQ
- [SYSLIB]LIBOTS.OLB
- [SYSLIB]LIBOTS.STB
- [SYSUPD]LIBRARY.HLP
- [SYSLIB]LIBRTL.DSF
- [SYSLIB]LIBRTL.STB
- [SYSSLDR]LNMS\$DEBUG.STB
- [SYSSLDR]LOCKING.STB
- [SYSSLDR]LOGICAL_NAMES.STB
- [SYSHLP]MAILHELP.HLB
- [SYSSLDR]MESSAGE_ROUTINES.STB
- [SYSHLP]MSA_UTIL_HELP.HLB
- [SYSSLDR]MSCP.STB

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- [SYSHLP]MSGHLP\$LIBRARY.MSGHLP\$DATA
- [SYSSLDR]MULTIPATH.STB
- [SYSSLDR]MULTIPATH_MON.STB
- [SYSSLDR]NET\$CSMACD.STB
- [SYSEXE]OPCOM.STB
- [SYSEXE]PCSI_EFIBACKUP.COM
- [SYSEXE]PCSI_EFIINSTALL.COM
- [SYSEXE]PING.EFI
- [SYSSLDR]PRF\$DEBUG.STB
- [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB
- [SYSSLDR]RMS.STB
- [SYSSLDR]RMSDEF.STB
- [SYSEXE]ROUTE.EFI
- [SYSHLP]SCACP\$HELP.HLB
- [SYSHLP]SDA.HLB
- [SYSSLDR]SECURITY.STB
- [SYSSLDR]SECURITY_MON.STB
- [SYSUPD]SET.CLD
- [SYSEXE]SHADOW_SERVER.STB
- [SYSEXE]SHARED_MEMORY_APIS_IN_OPENVMS_CRTL.PDF
- [SYSEXE]SHARED_MEMORY_APIS_IN_OPENVMS_CRTL.TXT
- [SYSSLDR]SHELL16K.STB
- [SYSSLDR]SHELL32K.STB
- [SYSSLDR]SHELL64K.STB
- [SYSSLDR]SHELL8K.STB
- [SYSEXE]SHUTDOWN.COM
- [SYSLIB]SMGSHR.STB
- [SYSLIB]STARLET.MLB
- [SYSLIB]STARLET.R64
- [SYSLIB]STARLET.REQ
- [SYSLIB]STARLETPAS.TLB
- [SYSLIB]STARLETS.D.TLB

- [SYSS\$LDR]SWISS\$DEBUG.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$CLUSTER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$CLUSTER_MON.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$CMDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$CTDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$DADDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$DKDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$DNDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$DQDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EHCIDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EI1000.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EI1000_MON.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EIDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EIDRIVER_MON.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EW5700.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EW5700_MON.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EW57711DRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$EW57711DRIVER_MON.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$FGEDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$GHDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$GSPDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$HIDDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$HUBDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$IKUDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$IKXDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$IMUDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$IPC_SERVICES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$KBDDRIVER.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$LAN.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$LAN_CSMACD.STB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$LASTDRIVER.STB
- [SYSLIB]SYSS\$LIB_C.TLB
- [SYSS\$LDR]SYSS\$LLDRIVER.STB

本アップデートキットで修正されるファイル一覧

- [SYS\$LDR]SYS\$MEMORYDISK.DAT
- [SYS\$LDR]SYS\$MKDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$OHCIDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PGADRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PGQDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKDDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKMDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKRDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKWDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$SRDRIVER.STB
- [SYSLIB]SYS\$STARLET_C.TLB
- [SYS\$LDR]SYS\$UGDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$UHCIDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$USBDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$VLANDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$VM.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE_MON.STB
- [SYSHLP]SYSGEN.HLB
- [SYS\$LDR]SYSGETSYI.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$LDR_DYN.STB
- [SYSHLP]SYSMANHELP.HLB
- [SYSMSG]SYSMSG.STB
- [SYSUPD]SYSTEM.HLP
- [SYS\$LDR]SYSTEM_DEBUG.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI.STB

- [SYSUPD]SYS_PARAMETERS.HLP
- [SYSEXEXE]TCPIP4.EFI
- [SYS\$LDR]TR\$DEBUG.STB
- [SYSHLP]UAFHELP.HLB
- [SYSUPD]UTIL_ROUTINES.HLP
- [SYS\$STARTUP]VMS\$CONFIG-050_SHADOW_SERVER.COM
- [SYS\$STARTUP]VMS\$DEVICE_STARTUP.COM
- [SYS\$STARTUP]VMS\$LPBEGIN-050_STARTUP.COM
- [SYSLIB]VMS84I_UPDATE-V0200_COVER.TXT
- [SYSLIB]VMS84I_UPDATE-V0500_COVER.TXT
- [SYSUPD]VMSINSTAL.COM
- [SYSMSG]VMSINSTAL_LANGUAGE.COM
- [SYSEXEXE]VMS_BCFG.EFI
- [SYSEXEXE]VMS_LOADER.EFI
- [SYSEXEXE]VMS_SET.EFI
- [SYSEXEXE]VMS_SHOW.EFI

